

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1150

第77回済生会学会
令和6年度済生会総会

愛媛（松山病院担当）



4

April 2025

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜
財団

済生会

/ think! /



/ sync! /

知る・見つける・支える

ソーシャル インクルージョン

Social Inclusion **シンク!**

ソーシャルインクルージョンを
多くの人々に知ってもらうための
ウェブメディアです。

サイト名は「知る・見つける・支える ソーシャルインクルージョン」。

愛称の「シンク!」は、social inclusionから名付けました。

think (思いを巡らせる)、sync (共感する、シンクロする) という意味も込めています。

済生会内外のさまざまな活動の記事を通して、ソーシャルインクルージョンの
実現を目指す人々の思いを知り、共感し、そして仲間になってほしい。

それが済生会の思いです。

知る・見つける・支える
ソーシャル
インクルージョン
Social Inclusion **シンク!**



社会福祉法人 恩賜財団 **済生会**

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311(代)
Email: headoffice@saiseikai.or.jp

<https://www.socialinclusion.saiseikai.or.jp/>



済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂

Shigeru Sumitani

なぜ少子化は止まらない

昨年11月、6年ぶりに福祉調査のため韓国を訪問した。これで6回目の訪問になるが、最近のソウルなど大都市の発展は、目覚ましい。「こんなに大きなビルがたくさんできたのか」と金浦空港からホテルへのタクシーの中から林立する高層ビルに目が引き付けられた。

同行した現地事情に詳しい人は、「高層ビルは、分譲マンション用のものも多い」と説明してくれた。日本と同様に分譲価格は、高額だという。それでも完売されていく。しかし、購入できる恵まれた人がいる一方、適



切な仕事に就けず生活に困窮する人も多いのが、韓国の現実である。所得格差が拡大している。このため将来への希望が持てない人が多くなり、結婚できない人が増えている。昨年の韓国の合計特殊出生率は、OECDで唯一「1」を下回り、0・75である大きな理由である。

でも他人事ではない。日本でも厚労省が令和6年の出生数は、72万人と9年連続減少で過去最少になったと2月に発表したばかりである。

☆ ☆

国は、令和5年12月、「こども未来戦略」と題した少子化対策を策定し、少子化を止めると意気込んだ。策定時から3年間を集中取組期間に設定して、各年度3・6兆円という巨額な予算で開始された。

しかし、私は、「こども未来戦略」は、ちょっとしたを外している、これまで本欄や一般の新聞紙上で警告を発してきた。「効果を上げるには時間が必要」という声が聞こえるが、初年度の状況が今後の趨勢を暗示している。

実施された具体的な対策の大

半は、すでに子どものいる家庭に対する児童手当や保育サービス等の金銭やサービスである。対象者は、少子化対策の恩恵を実感できたろう。だから本来であれば、少しは少子化の歯止めの前兆くらいは感じられてもよかつたはずだ。

なぜ効果が表れないのだろうか。少子化の最大の理由は、韓国と同様に結婚したくてもできない低所得の人が増加したことにある。総務省の調査でも正社員の30〜34歳の男性の6割が結婚しているのに対して、非正規の場合は2割に過ぎない。一番肝心のこの分野に対する施策が全く不十分である。

もう一つの大きな理由は、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）が根強いことである。「家事や育児は女性が担う」という伝統的な家族観が女性に結婚を躊躇させる。地方ほどこの傾向が強く、女性の転出を増加させる。韓国も同様な事情がある。

国は、この2点についてもっとと力点を置かなければ、少子化ストップの日は、蜃気楼のように遠ざかっていくばかりだ。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。

済生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適應していかなければならない。



済生

SAISEI

CONTENTS

APRIL, 2025

NEWSな済生人

地域医療再編《後編》

医療再編は大きな病院をつくるだけでは完結しない。医療機関の連携・運動が不可欠
〈新潟〉三条病院 院長

06

坂内 均さん

第77回済生会学会／

令和6年度済生会総会

愛媛（松山病院担当）

人材確保・人財育成で SDGs

総裁 秋篠宮皇嗣殿下のおことば 12／潮谷義子
会長挨拶 14／学会・総会プログラム 15／来賓
祝辞・来賓紹介 16／2849人に栄えある表彰 18
／被表彰者代表謝辞 21／学会概況報告＋次期
学会長挨拶 22／済生会令和賞 23／済生会研
修医のための合同セミナー 24／四役会議等＋
臨床研修管理担当者研修会 25／学会・総会ア
ルバム 26／懇親会 28

巻頭コラム 済生会の不易流行論

なぜ少子化は止まらない 理事長 炭谷 茂

03

topicS★コンシェル

表紙のことば 久保田眞由美

05

ソーシャルインクルージョン

30

TOPICS

42

大雑報

90

連載 機関誌「済生」が創刊100年！ 34

この人 藤堂日向 36

口福につぼん 吉井省一 38

だれでもかんたん てづくりおもちゃ
いまいみさ 40

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

topics★コンシェル



The latter half of this magazine is covered with a rich forest of treasurable articles.
What will you discover there?

「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!
質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。
済生コンシェルジュがおすすめする記事をご紹介します。



P46

セイコーエプソンによる「ゆめ水族館」が静岡済生会療育センター令和で開かれ、利用者・地域住民一緒に映像として映し出された魚を追いかけて楽しみました。



P85

〈富山〉高岡病院のMSWが講演で無料低額診療事業や身寄りなし問題などの取り組みを行政書士に解説しました。

[おすすめPOINT]

参加者が「近くに済生会があればいいのに」と話していたとのこと。“誰一人取り残さない”活動をさまざまな人がつながって活動する大切さを改めて感じました。



P92

〈兵庫〉小規模特養なでしこ神戸が開設した年から15年間、ボランティアとして活動する田淵一郎さんをご紹介します。



表紙のこぼ

小さな花の集まりは、小さな春の命を育む

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

見たことはありますか? 「葱坊主」。春の畑で喜びを満喫しているような坊主頭は小さな花の集合体。蜂も蝶も訪れます。長葱の匂いは魔除けになると言われ、この葱坊主の蕾は神社や橋の欄干の飾り「擬宝珠」の由

来にもなっているとか。そんな蕾はとても美味しいようです。開花の前に葱は収穫されます。誇らしげに元気に花を咲かせ残された坊主たちは未来に命をつなぐ種を残します。

地域医療再編《後編》

地域医療構想に基づく病院再編・統合が進む中、新潟県央地域を訪ねました。前編は済生会新潟県央基幹病院、後編は済生会三条病院をお伝えします。

三条病院のある新潟・県央地域（三条市、燕市など人口約22万人）の医療は2024年3月に済生会新潟県央基幹病院が開院したことで大きく変わりました（3月号に関連記事）。地域密着型病院としての医療機関と連携し地域に安定した医療の提供を目指す三条病院院長の坂

内均さんにこの1年を振り返ってもらいました。
（三重・明和病院 済生記者 藤岡拓人）

藤岡 医療再編によって三条病院の役割はどのように変わりましたか。

坂内 新設された県央基幹病院は急性期医療、

人材育成という大きな役割を担っています。当院は地域密着型病院として回復期・慢性期医療を中心に行ない、県央基幹病院の患者の転院先にもなっています。

藤岡 機能分担と連携が進められているのですね。

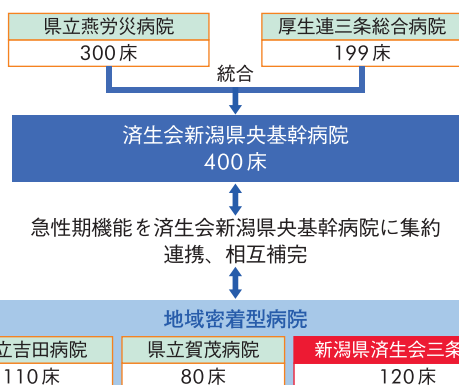
医療再編は大きな病院をつくるだけでは完結しない。医療機関の連携・運動が不可欠

〈新潟〉三条病院 院長

坂内均さん

県央医療圏再編の中の三条病院

読売オンライン記事より



坂内 当院は元より地域の医療機関や福祉施設との関係が強く、施設・在宅復帰のための退院調整も重要な役割となっています。かかりつけ病院として一部の急性期医療も行ないます。健診もこれまでのように行なっています。

藤岡 医療再編に向けて準備は順調に進み

※写真撮影時のみマスクを外しています

地域医療を支えるために 住民の理解と協力も重要



済生会三条訪問看護ステーションも「三条市家族介護支援事業」で住民の認知症予防や運動機能の維持・改善活動を実施

ましたか。
坂内 基幹病院の新設と既存病院の機能転換という大きな改革を前に、県央基幹病院の母体である燕労災病院・厚生連三条総合病院と、地域密着型の病院となる県立吉田病院・同加茂病院・当院、さらに地域の医療機関の院長が再編後の地域医療体制について協議を重ねました。しかし、

左はインタビューの藤岡さん

新病院の開院まで5カ月に迫った2023年10月頃の時点でも、地域住民には情報が伝わっていなかった印象がありました。

藤岡 その要因はなんだったのでしょうか。

坂内 地域医療の再編には、病院側と住民側が共通認識を持つことが欠かせませんが、そのための広報活動が十分に行なわれなかったために、当院の立ち位置が伝わらず、住民、患者さんが戸惑っている状況でした。

藤岡 「かかりつけの病院はどうなるのか……」という患者さんや住民の不安が想像できます。

坂内 「外来患者さんの中には当院がなくなるのではないかと」とか、「県央基幹病院に吸収されるのではないかと」と、診察時に心配そうに尋ねる人もいました。同じ地域に済生会の病院が新しくできることで不安に思う患者さんや住民の気持ちも理解できます。

藤岡 どのように説明をしたのですか。

坂内 県の地域医療構想に基づく医療再編により、当院の医療提供体制が変わることを説明しました。新しい診療体制は「日常の身近な外来・入院診療を行なう」「入院診療と合わせて重症化予防を行ない入院の長期化を防ぐ」「退院後も地域で安心して生活できるように在宅復帰および在宅療養を支援していく」と伝えました。

藤岡 具体的な役割が示されています。

坂内 また、救急対応は平日日中のみで、軽症患者さんが中心になること、県央基幹病院と連携して、回復期の患者さんの転院先になることを改めてアナウンスしました。



「ゲー」と「パー」を使ってリズムよく手を動かす体操では脳を鍛え認知症を予防する



小学生を対象とした「病院お仕事体験ツアー」。エコー体験をした児童は「人の体の仕組みがよく分かった」と話していた（右写真）。左は鶏肉を電気メスで切る模擬手術体験



藤岡 病院が存続することが分ければ、まずは一安心ですね。

坂内 患者さんや住民の漠然とした不安や疑問は、「通院し続けることはできるか」「かかりつけ医にしているが、休日や夜間に具合が悪くなった場合はどうしたらいいか」「他の医療機関で手術が必要と言われたが（当院で）受けることはできるか」など、より具体的な質問に変わりました。

藤岡 住民への認知が進んできた表れでしょうか。

坂内 住民へは「地域密着型病院は画像検査や内視鏡治療が必要な患者さんの診療を行ない、状況に応じて地域のクリニックなどを紹介します」「当院にかかりつけの患者さんも三条市応急診療所や県央基幹病院に受診してもらいます」「内視

鏡による手術、外来でできる治療は受けることができます」と返答し理解してもらいました。医療再編は地域医療を支えるために病院と住民の双方にとって重要です。そこに混乱が生じてはいけません。

モチベーションを保ちながら収益性を上げるため知恵を絞る

藤岡 県央基幹病院から転院してくるのはどのような患者さんですか。

坂内 主に誤嚥性肺炎など呼吸器系疾患のリハビリや退院調整、心不全など入院が長引く可能性がある患者さんや高齢で全身状態がすぐれない患者さんを受け入れています。

藤岡 病院間の情報伝達はどうですか。

坂内 県央基幹病院からの患者情報はかなり詳細であるため、受け入れ側として万全の態勢をとることができます。将来的には地域の連携病院が県央基幹病院のベッドコントロールの情報をリアルタイムで把握できるようになり、患者情報もオンラインで迅速にやり取りができるようになればいいですね。

藤岡 昨年4月から県央基幹病院は臨床研修基幹病院として9人の医師が臨床研修を始めました。

坂内 この地域も医師の高齢化、医師不足が深刻ですが、若手医師の育成が可能になれば、医師確保にも期待が膨らみます。回復・慢性期の病院であり、介護施設も併設する当院としても臨床研修プログラムの役

に立てることがあると思います。

藤岡 新体制で1年が経過しました。今回の医療再編をどのように評価しますか。

坂内 医療を提供する側と受ける側で評価は違いますが、前者の視点だと当院は産婦人科と小児科が県央基幹病院に移転したことで患者数が減りました。これら手術機能の移行により収益は低下したのですが、組織をスリムにして採算を上げるにしても、病院機能を維持していくうえで必須の部分があります。そこを削減すれば医療の質の低下につながります。

藤岡 経営路線も方向転換が必要になると。

坂内 モチベーションを保ちながら収益性を上げるのは難しいかもしれませんが、今後安定した病院経営のために知恵を絞っていきます。

藤岡 どのようなことが考えられますか。

坂内 例えば、健康診断の二次検診の受け入れ拡充はその一つです。近年、超音波検査で脾臓などに見つかった嚢胞の精密検査、便潜血の大腸内視鏡検査などが増えています。市内に新しくできた健診センター（県央健診スクエア）が、従来、燕労災病院や厚生連三条総合病院で行っていた健診の受け皿になり、そこで二次検診が必要な受診者の検査を当院で実施しています。

藤岡 地域の診療所、クリニックとの連携もこれまでに重要になりますね。

坂内 開腹手術が必要な患者は県央基幹病院に紹介されますが、内視鏡を使った治療や、軽度の誤嚥性肺炎や尿路感染症などの

済生会はあらゆる方々に分け隔てなく 医療と福祉を提供する

坂内 業務効率化を目指したDXがさまざまな業界に大きな変化をもたらしていますが、医療はデジタルでは代用できない。人肌〴〵の感覚が欠かせません。国はその観点

すか。

坂内 業務効率化を目指したDXがさまざまな業界に大きな変化をもたらしていますが、医療はデジタルでは代用できない。人肌〴〵の感覚が欠かせません。国はその観点

坂内 近年、医療依存度の高い高齢者が増えている印象があります。今後は長期療養の医療と日常生活の介護を一体的に行なう「介護医療院」の需要が増していくと見えています。国が推進する地域包括ケアシステムは、患者は最終的には自宅に戻って、デジタル技術を駆使して医療・介護サービスを受けることを狙っていますが、理想と現実のギャップは大きいと実感しています。

藤岡

藤岡 医療とDX（デジタルトランスフォーメーション）の相性はどのように考えますか。

藤岡 その狙いは。後、行政と連携して在宅医療、訪問診療を推進していければと考えています。



地元の障がい者施設を訪問、利用者の健康診断を行なう

治療は従来どおり当院への紹介でカバーできます。

藤岡 行政との連携はどうですか。

坂内 今後の重要な課題です。この地域には福祉施設が多く、自宅での患者ケアはあまり積極的に行なわれていません。今後、行政と連携して在宅医療、訪問診療を推進していければと考えています。

で政策を進めてもらえればと思います。

医療資源の適正利用に 地域住民の理解を求める

藤岡 「なぜ全国で医療再編が必要なのか」。

坂内 医療再編は大きな病院をつくるだけでは完結しません。

坂内 医療再編は大きな病院をつくるだけでは完結しません。地域の医療機関が各々の役割を担い、互いに連携・連動することが重要です。一方で基幹病院ができて、近くで受診しやすくなったとか、大きな病院に行けば何でも診てもらえると考える人もいます。

藤岡 まだ正しい認識が浸透していないと。

坂内 本来は県央地域の医師会が運営する応急診療所で一次救急を行な

【取材を終えて】

「医療再編は地域医療を支えることが目的。大きな病院をつくるだけでなく各医療機関が連携・連動することが重要。そして病院と住民による共通認識が不可欠」と坂内院



三条病院のロビーにて

う仕組みになっていますが、救急に対する啓発不足もあってか、それを飛び越えて県央基幹病院に直接受診される患者さんもあります。限られた医療資源の適正利用が望まれます。

藤岡 医療再編は住民の理解と協力で進めることが重要なのですね。

坂内 医療再編は住民の理解と協力で進めることが重要なのですね。患者さんは住み慣れた地域で医療を受けることができる。医療を提供する側と受ける側のお互いが医療再編を考え、理解する必要があります。

藤岡 最後に三条病院はどうあるべきですか。

坂内 当院はあらゆる方々に分け隔てなく医療、福祉を提供する――。済生会の理念にやささかの揺るぎもありません。

長は話していました。三条病院ではすれ違ふ職員全員が挨拶するとても良い雰囲気でした。これからもより良い医療・福祉を提供し続けると確信しました。（藤岡拓人）

人材確保・人財育成で SDGs

第77回済生会学会

令和6年度済生会総会

令和7年2月15・16日／愛媛（松山病院担当）

第77回済生会学会・令和6年度済生会総会が

2月15・16日、愛媛県県民文化会館・愛媛看護研修センターで開かれた。

愛媛での開催は23年ぶり、松山病院が担当するのは初めて。

「人材確保・人財育成でSDGs」をテーマに全国から約2400人が参加。

学会・総会に合わせ、四役会議等、臨床研修管理担当者研修会、

済生会研修医のための合同セミナーなども開催された。



松山市庁前の交差点から松山城を望む。春は桜の名所として花見客でにぎわいます。路面電車は明治から昭和にかけて運行されていた蒸気機関車をモデルにした「坊ちゃん」列車も観光客に人気です。

おことば

総裁

秋篠宮皇嗣殿下



本日、「令和6年度恩賜財団済生会総会」が、来賓ならびに全国の済生会支部および施設から多数の参加を得て、ここ松山市において開催されますことを誠に喜ばしく思います。

済生会は、明治44年、1911年に明治天皇の済生勅語により創立されました。爾来、本会を支えてこられた先人、そして皆様方のたゆまぬ努力によって、今日では日本最大の医療・福祉団体となり、全国各地で医療・保健・福祉の総合的なサービスを担っております。

ここ愛媛県内においては、済生会松山病院をはじめ四つの病院と診療所が地域に根差した、患者にやさしい医療を展開しています。そして、介護老人保健施設や特別養護老人ホームなど、多くの施設が活動しており、各施設の職員の方々は、昼夜を問わず、地域の医療と福祉の推進に懸命に取り組んでおられます。

また、瀬戸内海では、私も以前に視察いたしましたのが、日本で唯一の巡回診療船「済生丸」を運行してお



ります。瀬戸内の島々を巡りながら、診療と予防医療を提供し、離島で暮らす人々の健康管理に尽力していきます。

さて、この1年間を振り返りますと、昨年元日に石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震が発生しました。その際には、発災直後より、済生会金沢病院が、地域住民の避難と被災患者の受入れを行い、各病院のDMAT隊は、直ちに被災地に入り災害支援活動を行いました。私は、1月と2月に現状報告を受け、2月には、金沢病院を訪問しました。被災患者の受入れが金沢病院に集中する中で、全国の済生会病院より看護師をはじめとする本会の職員が応援に入り、多くの被災患者の受入れを行うことが出来たこと、そして、済生会が一致団結して災害対応に取り組んだことに深い感銘を受けました。

また、昨年9月には、JR大阪駅周辺地区に移転・新設された大淀南医療福祉総合施設を視察しました。新しいまちづくりに向けて取り組んでいる同地区で、この施設が乳児院、特別養護老人ホーム、リハビリテーション病院、看護学校との連携を図り、済生会独自の地域包括ケアシステムを展開していくことを期待しています。

済生会は、今日にいたるまで、多くの役割を担ってきておりますが、これは、今後さらに増大するものと思います。『施薬救療』の精神という揺るがない理念の下、全ての役職員が丸となって地域住民の健康と暮らしを支えるため、その使命を果たしていくことを希望いたします。

おわりに、本日表彰を受けられる方々をはじめ、これまで済生会の活動を支えてこられた多くの関係者の多年のご尽力に対し、心より敬意と感謝の意を表します。そして、皆様が今後とも健康に留意されながら活躍されることを祈念し、総会に寄せる言葉といたします。

ソーシャルインクルージョンの実現をめざして歩み続ける



本日、総裁・秋篠宮皇嗣殿下御臨席のもと、ご来賓にご列席をいただき、総会、学会を開催できますことにお礼を申し上げます。

今年の元旦、マスコミ報道は能登半島地震、9月の記録的豪雨からの復旧復興の進展は今なお種々の難題を抱え、残念なことに関連死も増加し、人々の暮らしは「難難辛苦」の日々を余儀なくされている実態にふれていました。

私は昨年、総裁の同意を得て金沢市内の済生会にまいりました。能登地方の病院では電気、水もないなかで透析患者の方々は「死」を覚悟したと話されました。総裁は10人を超す患者の方々お一人、お一人の前で腰をおとし、ひざまずき、絶望と恐怖の中で過した患者の話を傾聴され、助かった生命を共に喜び、なぐさめと再びの社会復帰を願われました。明治天皇の済生勅語からすでに100年を超す歳月が流れているにも関わらず、総裁の姿勢から「救療済生」の本旨が時をこえて脈々と生きていることを実感しました。

今日、日本が直面している少子高齢問題、社会情勢の急速な変化は、個人や家族が抱えている問題を複雑、多様化させ、その解決は格段に困難になっています。済生会の拠って立つところの理念と精神、「施薬救療」の役割、個々人

のニードに対応できる専門性はますます重要になってきていると言えましょう。本会は今後とも、誰一人取り残されない社会の実現・ソーシャルインクルージョンの実現をめざして歩み続ける必要があります。

本日、栄えある表彰をお受けになられる方々には、優れた功績と永年にわたる御努力に対し、心から感謝と敬意を表すとともに、今後とも、済生会の発展のため、一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。

総会・学会の役割を担っていただきました愛媛県は、日本で初めての女医であり、産婦人科医として19歳にして宇和島で活躍したシーボルトの娘、楠本イネ、日本近代文学に大きな足跡を残した夏目漱石は「坊ちゃん」の著の中で日本最古の道後温泉を舞台に、若さとユーモア一杯にその存在を書き残しています。さらに忘れてならないのは、漱石が自分の俳諧の師と仰ぎ終生変わることのない友情と豊かな絆を結んだ正岡子規の産土の地でもあります。その愛媛県でこのたび多大な御支援・ご指導をいただきました関係者の方々、御多忙な時間を割いて本日も御列席くださいました御来賓のみなさまに衷心よりお礼を申し、今後とも御健勝で御活躍をお祈り申し上げます、私のあいさついたします。

第77回済生会学会・令和6年度済生会総会

「人材確保・人財育成でSDGs」

2月15日(土)	時 間	行 事	会 場
	10:30～13:00	経営管理会議	ANAクラウンプラザホテル松山
	14:10～15:00	四役連絡会議	
	四役会議等		
	15:30～17:30	病院長会議	ANAクラウンプラザホテル松山
	15:30～17:30	事務(部)長会議	
	15:30～17:30	看護部長会議	ホテルマイステイズ松山
	15:30～18:00	福祉施設長会議 (分科会含む)	ANAクラウンプラザホテル松山
	15:30～17:45	薬剤部長会議	愛媛県県民文化会館
	研修会・セミナー		
10:00～12:30	臨床研修管理担当者研修会	愛媛県県民文化会館	
13:30～17:30	済生会研修医のための合同セミナー		

2月16日(日)	時 間	行 事	行事
	7:30～	受付	
	8:30～ 8:40	開会式	
	8:40～ 9:30	基調講演	「知るを愉しむ」相澤病院ブランドアンバサダー 小平奈緒氏
	9:45～11:15	シンポジウム1	医療施設での人材確保・人財育成
		シンポジウム2	福祉施設・介護施設での人材確保・人財育成
		シンポジウム3	さまざまな職種における病院経営への積極的な取り組み
	9:40～12:10	一般演題(口演発表)	済生会保健・医療・福祉総合研究所、デジタル・トランスフォーメーション(DX)、医師部門、薬剤部門、看護部門(看護業務、看護教育/キャリア開発、看護管理/災害対策)、社会福祉部門、検査部門、リハビリ部門、医療安全/感染管理、人材育成・確保/労務管理/人事制度
	9:40～11:20	一般演題(ポスター発表)	医師部門、看護部門、検査部門、放射線部門、薬剤部門、栄養部門、リハビリ部門、事務部門、臨床工学技士部門、社会福祉部門、なでしこプラン/地域連携、医療経営/医療情報、医療安全、チーム医療、感染管理、デジタル・トランスフォーメーション(DX)、人事、災害、地域連携、働き方改革/タスク・シフト/シェア、その他
	12:25～13:25	ランチョンセミナー1	初期費用0円のできる省エネ対策と今からすべき最新のITサービス
		ランチョンセミナー2	電子請求書についてのセミナー～電子請求書と今後の展開～
		ランチョンセミナー3	『LEAN Innovation』“看護現場”の課題解決で、病院の持続可能な未来を！～「チェンジマネジメント」の実現で成果を出す手法とは？～
		ランチョンセミナー4	富士通と創る安心・安全・持続可能な医療の未来
		ランチョンセミナー5	ワイズマンの医療・介護DX取り組み事例のご紹介
		ランチョンセミナー6	認知症症状を軽減するコミュニケーション
		ランチョンセミナー7	ICタグで変わる手術室、院内物流DX事例 —魔法の道具に変換する方法—
		ランチョンセミナー8	ダビンチ手術における安全で効率的な運用と経営的メリット
	13:40～15:00	一般演題(口演発表)	全国済生会事務(部)長会活動報告、リハビリ部門、放射線/臨床工学技士部門、医療の質/チーム医療、地域包括ケア連携士/事務部門(その他)、診療報酬/病院経営マネジメント/無料定額診療事業、生活困窮者支援事業、看護部門/看護の質・評価/その他の看護、看護部門専門/認定/特定/診療看護師
	15:30～16:40	総会	
	16:40～17:30	懇親会会場へ移動	
	17:30～19:30	懇親会	

令和6年度済生会総会 式次第	令和7年2月16日 愛媛県県民文化会館
一、開 式	
一、国歌斉唱	
一、会長挨拶	
一、おことば	
一、来賓祝辞	
一、来賓紹介	
一、表彰	
一、被表彰者代表謝辞	
一、学会概況報告	
一、感謝状の贈呈	
一、次期学会長の委嘱ならびに挨拶	
一、閉 式	

来賓祝辞

「いのち」に寄り添い、地域社会を支える 済生会の理念「施薬救療」の精神の下



日原知己・厚生省社会・援護局長

福岡資磨・厚生労働大臣（代読・厚生省社会・援護局長の日原知己氏）、中村時広・愛媛県知事、野志克仁・松山市長がそれぞれ祝辞を述べた。

福岡大臣の祝辞を代読した日原局長は済生会は設立以来、「施薬救療」の精神の下、「生」を「済」う「済生」として「無料低

額診療事業の実施」「なでしこプランの取り組み」「ソーシャルインクルージョン推進計画」など地域医療や福祉の拠点となり地域社会の発展に貢献、常に社会情勢に目を配り、時代のニーズに応じた事業の展開を続けていると敬意を表した。加えて、単身世帯の増加や社会的孤独・

孤立といった社会福祉を取り巻く環境が変化し、福祉ニーズが



中村時広・愛媛県知事



野志克仁・松山市長

複雑化・複合化する中で、制度や分野を超えて地域住民や多様な主体が互いに支え合い、「地域共生社会」を実現するために、済生会には医療・福祉といった広い分野での実績と歴史と伝統に培われた実力を存分に発揮されるよう述べた。

中村知事はコロナ禍において病床がひっ迫する中、済生会病院が直ちに対応したこと、日ごろは診療船「済生丸」による離島やへき地医療の充実に貢献していることについて感謝

を述べた。能登半島地震発生時の被災地へのDMAT派遣やJMATへの協力等済生会の対応についても敬意を表した。また、愛媛県が2024年3月に策定した「第8次愛媛県地域保健医療計画」に基づき、災害時医療の充実・強化や新たな感染症に備えた体制の整備、医師・看護師等の医療従事者の育成・確保等、医療資源を有効活用し、地域のニーズに応じた医療提供体制の構築に向け協力を求めた。

野志市長は済生会が医療・福祉・保健分野について積極的に活動し、公衆衛生向上に努めていること、松山病院が松山医療圏域の中核病院として二次救急輪番病院の役割を担っていること、離島での巡回検診や健康教育の開催など地域に根ざした活動を通して市民の健康と医療の向上に努めていることに感謝の意を述べた。その上で市が関係機関と連携して、市民が笑顔で幸せを実感してもらえるまちづくりに協力を求めた。

来賓紹介

司会 ご来賓の皆様をご紹介します。愛媛県医師会会長・村上博様、松山市医師会会長・矢野誠様。本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。



左から日原氏、村上氏、中村氏、矢野氏、野志氏



道後温泉本館。1994年に国の重要文化財に指定された。塔屋の上の白鷺は本館のシンボル

2849人に 栄えある表彰

済生会の発展に尽力した職員の表彰が行なわれた。名誉会員2人、有功会員1人、功労会員4人、功労会員の看護職に授けられる寛水賞7人、30年以上勤続3

79人、20年以上勤続824人、10年以上勤続1632人の合計2849人。名誉会員と有功会員には秋篠宮皇嗣殿下から表彰状を授与されたほか、功労会

員、寛水賞、各永年勤続の代表者には潮谷義子会長から表彰状が手渡された。被表彰者を代表して〈愛媛〉松山病院院長の宮岡氏が謝辞を述べた。

名誉会員



高中和明

〈岡山〉特別養護老人ホームみなみがた荘
施設長



宮岡弘明

〈愛媛〉松山病院
院長



林 亨

〈大阪〉千里病院
名誉院長



功労会員



追別小夜子
〈福井〉特別養護老人ホーム聖和園
園長



関口曉雄
〈埼玉〉鴻巣医療福祉センター
地域支援事業本部長



高畑隆臣
〈岡山〉吉備病院
診療部長



佐藤二郎
兵庫県済生会
参与

寛水賞



中島あゆみ
〈埼玉〉鴻巣病院
医療安全管理室師長



余川由紀子
〈栃木〉宇都宮病院看護専門学校
教務課長



黒沼幸恵
山形済生病院
看護部業務顧問



岡崎直子
岡山済生会総合病院
副看護部長



前川孝子
〈和歌山〉有田病院
看護部長



清水浩美
福井県済生会病院
看護副部長



脇和枝
福井県済生会病院
副院長(併)看護部長

2849人に 栄えある表彰

済生会の発展に尽力した職員の表彰が行われた。名誉会員2人、有功会員1人、功労会員4人、功労会員の看護職に授けられる寛水賞7人、30年以上勤続3

79人、20年以上勤続824人、10年以上勤続1632人の合計2849人。名誉会員と有功会員には秋篠宮皇嗣殿下から表彰状を授与されたほか、功労会

員、寛水賞、各永年勤続の代表者には潮谷義子会長から表彰状が手渡された。被表彰者を代表して〈愛媛〉松山病院院長の宮岡氏が謝辞を述べた。

名誉会員



高中和明

〈岡山〉特別養護老人ホームみなみがた荘
施設長



宮岡弘明

〈愛媛〉松山病院
院長



林 亨

〈大阪〉千里病院
名誉院長



功労会員



追別小夜子
〈福井〉特別養護老人ホーム聖和園
園長



関口曉雄
〈埼玉〉鴻巣医療福祉センター
地域支援事業本部長



高畑隆臣
〈岡山〉吉備病院
診療部長



佐藤二郎
兵庫県済生会
参与

寛水賞



中島あゆみ
〈埼玉〉鴻巣病院
医療安全管理室師長



余川由紀子
〈栃木〉宇都宮病院看護専門学校
教務課長



黒沼幸恵
山形済生病院
看護部業務顧問



岡崎直子
岡山済生会総合病院
副看護部長



前川孝子
〈和歌山〉有田病院
看護部長



清水浩美
福井県済生会病院
看護副部長



脇和枝
福井県済生会病院
副院長(併)看護部長

永年勤続表彰

10年以上勤続
(1632人)



〈北海道〉小樽病院
院長

和田卓郎

20年以上勤続
(824人)



〈島根〉江津総合病院
名誉院長

堀江 裕

30年以上勤続
(379人)



〈佐賀〉唐津病院
院長

園田孝志



被表彰者代表謝辞

済生会の歴史・伝統を生かし、
済生会ブランドをさらに向上させる

〈愛媛〉 松山病院院長

宮岡弘明

〈愛媛〉 松山病院院長の宮岡弘明氏が被表彰者を代表して、次のような謝辞を述べた。



私は昭和56年に鹿児島大学医学部を卒業、故郷の愛媛県に戻り、平成4年に松山病院に入職、26年から院長を務めている。

当院は松山二次医療圏の救急患者を積極的に受け入れ、コロナ禍では早期から患者を受け入れた。公的病院としての当院の使命を果たすためにご協力をいただいた関係機関や医師会、病院スタッフの皆さんに、深く感謝する。

済生会は恵まない方々に医療・福祉を通じて社会貢献をするという崇高な精神に基づき、各都道府県の本会施設が無料低額診療事業や生活困窮者支援事業「なでしこプラン」に取り組んでいる。岡山・広島・香川・愛媛の4支部では瀬戸内海巡回診療事業「済生丸」事業に従事。

本会設立50周年を記念した本事業は海を渡る病院として国内唯一の診療船「済生丸」に乗り、島嶼部に暮らす人々の健康を守っている。

少子高齢化と人口減少、経済格差の拡大など環境が急激に変化する中で、働き手不足や物価高騰など、日本の医療・福祉を取り巻く環境はきわめて厳しい。このようなときだからこそ、全国の済生会施設が情報を共有し、「施薬救療」の精神に基づき、各地域の医療・介護・福祉・保健の維持・発展に努める必要があると痛感している。



道後温泉駅前の坊っちゃん



カラクリ時計（左）と道後温泉本館東側にある漱石坊っちゃん之碑

学会概況報告・次期学会長の挨拶

第77回学会会長で〈愛媛〉松山 報告を、第78回学会会を担当する
病院の宮岡弘明院長が学会概況 滋賀県病院の三木恒治院長が次
期学会長の挨拶をした。概要は
以下のとおり。

一般演題505題。人材に焦点をあて、 済生会のさらなる交流と連帯の一助を願う

第77回済生会学会会長 〈愛媛〉松山病院 院長

宮岡弘明



学会テーマは
少子高齢化や人
口減少により組
織運営が困難に
なる中で、済生
会全体が知恵を
出し合うために
「人材確保・人
財育成でSDG
S」とした。

はじめに相澤
病院ブランドアンバサダーの小
平奈緒氏が「知るを愉しむ」と
題した基調講演が行なわれた。
シンポジウムは①医療施設での
人材確保・人財育成②福祉施設・
介護施設での人材確保・人財育

成③さまざま

まな職種に

おける病院

経営への積

極的な取り組みの3題を実施し
た。全国から約2400人が参
加、口頭196、ポスター30
9の合計505題の発表があつ
た。

俳句済生会や蛇口からみかん
ジュースなど松山の雰囲気を感じ
てもらおう企画も実施、コング
レスバッグは、能登半島地震で
被災された石川県を支援するた
め同県の業者に依頼した。

ご臨席の秋篠宮皇嗣殿下、潮
谷義子会長。ご来賓の皆さま、
全国の済生会職員に心から感謝
する。学会運営に尽力した松山
医療・福祉センターの職員には
心から拍手を送る。本学会の成
果が皆様の明日につながることを
願う。

「働き方改革

医療生産性の効率化を求めて」

2月14・15日、滋賀・大津市で

第78回済生会学会会長 滋賀県病院 院長

三木恒治



を共有したい。

特別講演は2

012年にノー

ベル生理学・医

学賞を受賞した

山中伸弥氏、基

調講演は政府の

AIホスピタル

プロジェクトチ

ームのチームリ

ーダーで、高度

かつ先進的な医療推進にも取り
組む中村祐輔氏が登壇予定。シ
ンポジウムや一般演題など、多
くの方が学び合い交流できるよ
う準備する。

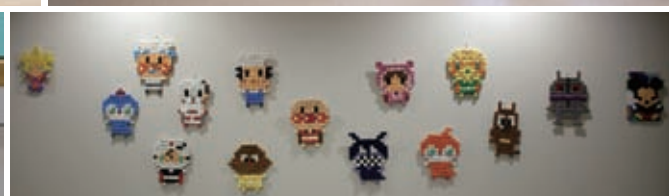
滋賀県は美しい自然と豊かな
歴史・文化が融合した魅力あふ
れる地域。アクセスも良く日帰
り旅行にも最適。梅のつぼみが
ほころび始める立春の滋賀での
再会を心より楽しみにしている。



新潟病院



〈北海道〉みどりの里



済生会令和賞

新潟病院と

北海道・みどりの里が受賞

患者・利用者へのサービス
の質の向上や地域貢献などの取り組みを顕彰する「済生会令和賞」に新潟病院と北海道・みどりの里が選ばれ、炭谷茂理理事長から表彰状と記念の盾が贈られた。

新潟病院は令和5年5月に新潟県医師会か

ら新潟市内における医療再編の新たな救急拠点の整備・運営主体に選定された。県や市・消防局・大学や医師会等と調整を重ね、院内では推進組織を立ち上げ、救急外来の改装や医師確保対策・他院との連携強化に取り組み、初年度は目標3500台に対し4500台を受け入れた。その後も体制強化を図っている。

北海道・重症心身障がい児（者）施設みどりの里は令和2年9月に小樽病院と統合、小樽市築港地区に新築移転した。入所者・家族・職員等で構成する共創型のインクルーシブ演劇「劇団みどり」は市民7000人が集まる共生イベントでも活動。社会参加が進まない障害児者の活動支援や活動の場を提供し、重心施設の先駆的活動として全国的にも評価され、済生会の知名度を向上させた。

済生会研修医のための合同セミナー

指導者の役割を学ぶ

2月15日に愛媛県民文化会館で済生会研修医のための合同セミナーが開かれた。「臨床教育の未来と我々の実践」教育の済生会の充実に向けて」をテーマに本会病院1年目の研修医284人と研修責任者（指導医）37人が出席した。済生会学会・総会に合わせて開催しているもので、研修医の交流を深めている。

進行は企画責任者で（栃木）宇都宮病院の泉学・総合診療科主任診療科長（医師臨床研修専門小委員会委員）。本部・松原了理事の挨拶に続き、船崎俊一・済生会保健・医療・福祉総合研究所・担当顧問が「学ぶ側から教える側へ」と題し講演した。

グループワークで研修医は研修責任者がサポートする中、指導者としての役割を学んだ。グループワークの成果は済生会総研が集計・解析を行なう予定。

恒例のレジデント企画・当院の臨床研修では、研修医が自院の研修の魅力をプレゼン。研修責任者の投票の結果、優勝の（愛媛）松山病院、準優勝の熊本病

院、3位の（北海道）小樽病院に賞状と記念品が贈られた。（済生会総研・人材開発部門／本部事業基盤課）



四役会議等



病院院長会議



看護部長会議



事務(部)長会議



福祉施設長会議

病院長、事務(部)長、看護部長、福祉施設長、薬剤部長が集まる会議が2月15日、ANAクラウンプラザホテル松山などで開かれた。

福祉施設長会議後は①老人保健施設②老人福祉施設③障害者施設④訪問看護ステーション⑤乳児院の分科会を実施。昨年に続き診療放射線技師長会も開かれた。



薬剤部長会議



診療放射線技師長会

臨床研修管理担当者研修会

研修医育成のワールドカフェ

2月15日に愛媛県民文化会館で臨床研修管理担当者研修会が開かれ、済生会病院の指導医37人が参加した。

企画責任者の〈茨城〉水戸済生会総合病院・千葉義郎臨床研修センター長(医師臨床研修専門小委員会委員)と福井県済生会病院・金原秀雄内科部長(同小委員会委員)が進行した。

前半は順天堂大学医学部医学教育研究室・西崎祐史教授が「臨床研修医の基本的臨床能力の向上のために」と題し、JAMEP(NPO法人日本

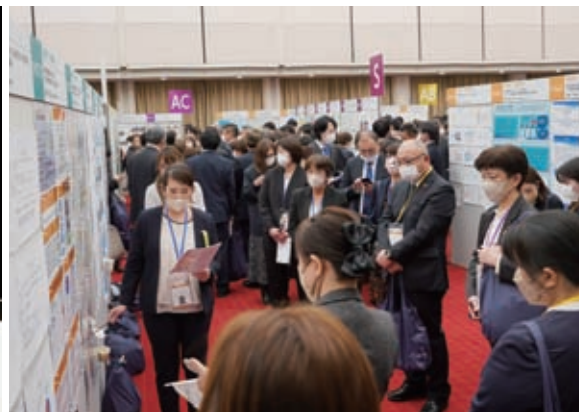
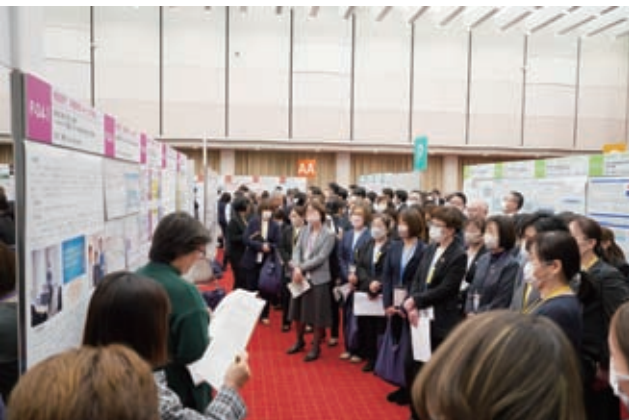
医療教育プログラム推進機構)が提供する「GM-ITE(基本的臨床能力評価試験)」を解説した。

後半は「臨床研修医の基本的臨床能力向上のために何ができるか」をテーマにワールドカフェを実施。受講者は「他施設の方と有意義な意見交換、情報・知識・悩みの共有ができた」「他施設の現状を知ることができて、有益だった」と評価し、研修医の育成などの理解を深めた。

(済生会総研・人材開発部門／本部事業基盤課)



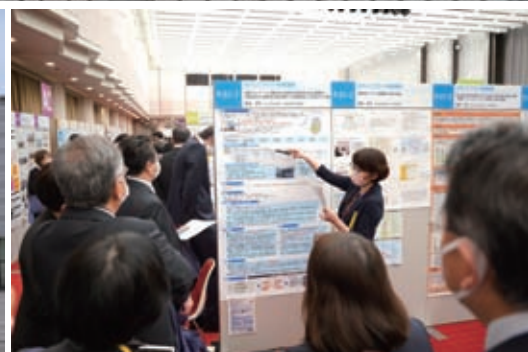
人材確保・人財育成でSDGs



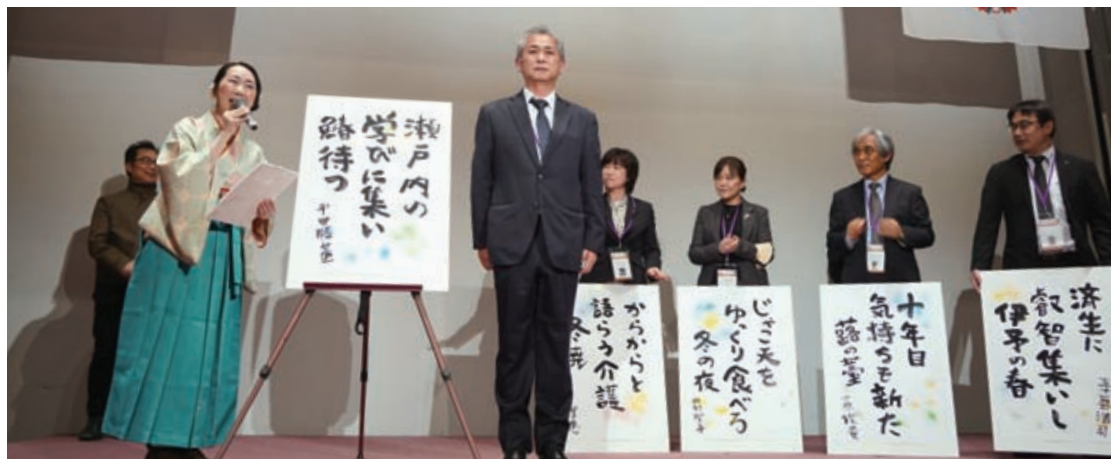
他にもシンポジウム、ランチョンセミナー、パネルディスカッション、一般演題（口演・ポスター）発表などを実施。俳句が盛んな松山市にちなみ参加者が応募する「俳句済生会」では300句もの作品が集まった。他にも「蛇口からみかんジュースのスタンプリ」も行なわれた。

基調講演は相澤病院ブランドアンバサダー・小平奈緒氏。「知るを愉しむ」と題し、スピードスケート選手時代を振り返り「自立を促してくれるコーチの存在、選手としての成長を互いに喜び合えるチームメイトの存在が大きかった」と話した。

開会式では学会長の宮岡弘明松山病院院長が夏目漱石の小説「坊ちゃん」の衣装で開会挨拶、東良子看護部長と林田哲也事務長も同小説の登場人物に扮して舞台に登場し会場を和ませた。



懇親会



若林氏



三角氏



矢野氏



村上氏



岡田氏



秋篠宮皇嗣殿下をお迎えし、午後5時30分から愛媛県民文化会館とANAKラウンブラザホテル松山で懇親会が開かれた。

愛媛県済生会の岡田武志支部長の挨拶に続き、来賓の村上博

愛媛県医師会会長と矢野誠松山市医師会会長が祝辞を述べた。全国済生会病院長会の三角隆彦会長（神奈川・横浜市東部病院院長）の乾杯の音頭で祝宴に入り2時間にわたって交流と歓談が行なわれた。

「俳句済生会」の表彰式も行なわれ、愛媛県出身の俳人・川又夕氏が優秀作品を披露した。若林久男同会副会長（香川県済生会病院院長）の中締めで閉宴となった。

松山病院の皆さん、おつかれさまでした



＼ WEB掲載はじまりました！／

済生会 topics WEB

機関誌「済生」に投稿された topics から厳選した記事を発信中！



<https://www.saiseikai.or.jp/topics/>



済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。

無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。

だれも排除されないまちづくりを目指し、
全支部・施設が1600の事業を展開します。

ソーシャルインクルージョン

地域包括支援センターとは？ 山口刑務所で連携士による講義

山口地域ケアセンター



山口刑務所が行なう教育活動「高齢または障害を有する受刑者に対する社会復帰準備指導」として地域包括支援センターの話をしてほしいとの依頼がありました。

2月6日、済生会地域包括ケ

ア連携士の植木伸彦さん（社会福祉士）が「地域包括支援センターってどんなところ？」をテーマに、6人の受刑者に対して相談事例を交えながら説明を行いました。

説明後には「犯罪歴は相談に

影響するのか」

「刑の内容を伝えないと相談できないのか」などの質問に対し、

植木さんは不安を理解しつつ「困りごとは一人で抱え込まず、

地域包括支援センターに相談してほしい」と応じました。また、過去の事例を紹介し「生活の中で楽しみや生きがいを見つけることが立ち直りにつながる」と

期待を込めて講話を終りました。

（済生記者

楊 玉華）

〈埼玉〉川口総合病院

インフルエンザワクチン接種で 難民児童に救いの光を

昨年11月20日と12月18日に、約10人の難民児童にインフルエンザワクチンを接種しました。

過去に難民のご家族がインフルエンザに感染し、入院費の支払いが滞るという問題が発生しました。何とかこの状況を改善できないかとNPO 難民支援協会と当院で検討を重ね、現在の活動へとつながりました。

難民認定を受けたとしても困窮する

方々は今もなお多くいます。また、難民申請中（仮放免）の方々は制度上、健康保険に加入できず、就労も認められていないため、病気になるかかると自費での診療費を支払えないケースも少なくありません。



本活動は、貧困家庭の中でも特に支援が必要な家庭の児童を対象としています。限られた人数ではありますが、こうした支援が彼らの生きる力となることを確信しています。

（医療福祉事業課 柳光季恵）

寿地区無料健康診断に63人 「地域で生きる」を支える

神奈川県済生会



人が健診を受けました。今年の冬は非常に厳しい寒さでしたが、支援団体の方に聞いたところ、寒すぎることで支援につながる側面もあり、今年の冬は亡くなる方はいなかったそうです。一

当センターは、罪を犯した障害・高齢の方への福祉的な支援を担っています。刑余者の方が再犯なく、安心して地域で暮らしていくためには医療機関、福

社施設をはじめ、さまざまな方の協力が不可欠です。刑余者だけでなく、地域の方にも安心してつながってもらえるよう、今後も普及啓発活動に力を入れていきます。

(相談員 西村悠香)

人も取りこぼすことなく「地域で生きる」を支えるため、済生会として今後も活動していきたいと考えています。

(若草病院 済生記者

長澤伸哉)

2月28日に横浜市中区寿町で「令和6年度寿町無料健康診断」を行いました。

この事業は、神奈川県済生会のソーシャルワーカー会が企画・運営。公益財団法人横浜市寿町健康福祉交流協会や、寿炊き出しの会の協力を得て、毎年度2回開催しています。また、静岡県済生会からレントゲン車とスタッフを派遣してもらって

刑余者への理解を深める 「つながる会議」初開催

1月15日に熊本刑務所、熊本保護観察所と協力して「第1回

矯正・地域つながる会議」を主催しました。

医療機関、地域包括支援センター、障がい者相談センター、救護施設、不動産管理会社など九つの機関から15人が参加。刑務所の見学を行なうことで、刑



熊本県地域生活定着支援センター

茨城県の相談会に SW4人を派遣 医療・福祉サービスへ橋渡し

済生会関東ブロック MSW 共同事業



医療へのアクセスが困難な人々を支援するための相談会で、SWたちは生活困窮者や在留資格に課題を抱える外国人を中心に、医療・福祉サービスへの橋渡しを行ないました。

相談会では50人の予約枠が満員に。弁護士による無料相談、生活相談、食料・衣類などの支

2月9日、茨城県笠間市でNPO法人北関東医療相談会主催の「第69回医療相談会」が開催され、「済生会関東ブロックMSW共同支援事業」として茨城県にある龍ヶ崎済生会病院・水戸済生会総合病院・常陸大宮済生会病院、埼玉県にある生活支援センター夢の実から計4人のソーシャルワーカー（SW）を派遣しました。

県内唯一の更生保護施設での 健診事業で10人が受診

なでしこプランの一環で、3月9日、津市にある更生保護施設「上弁財荘」で健診事業を行ないました。三重県済生会が毎年実施するもので、今回は当院

が担当。医師1人、看護師2人、臨床検査技師1人、MSW1人、事務1人の計6人で訪問しました。健診項目は身長・体



援物資の配布が行なわれました。特に健診は人気が高く、57人の外国人が受診しました。

当日は95人のボランティアが参加し、受付、通訳、医療支援など多岐にわたる役割を担いました。

（栃木・宇都宮病院

地域連携課 秋山綾香）



重・腹囲計測、血圧測定、血液検査、心電図検査と充実した内容で、10人の入所者さんが受診しました。

更生保護施設とは、犯罪や非行により刑務所や少年院に入った方々の社会復帰を支援する施設で、全国に102カ所あります。三重県ではこの上弁財荘のみです。

（済生記者 藤岡拓人）

〈三重〉明和病院

食品配布会で相談支援 地域の生活課題に寄り添い、 医療・福祉につなぐ

〈栃木〉宇都宮病院

〈栃木〉宇都宮病院

食品や生理用品の配布と相談会に92人 アウトリーチの重要性を再確認

昨年12月27日、フードバンク
うつのみやで開催された「子育て
世帯向けの食品配布会（兼）
相談会」に、当院の稲見一美
地域連携課長と牧宏一MSW、
富山里香MSW、高木茜事務
職員が参加しました。

当日は92人が来場。当院職員
の寄付による食料品や生活用品
のほか、生理用品も無料で配布
しました。

相談ブースでは「物価高騰で
野菜も買えずにいたため本当に
助かる」といった声が聞かれま

親は「助かります」
と目に涙を浮かべて
いました。

その他、20代の女
性から「妊娠してい

ないか不安」というメモが相談
員に渡され、対応。食料品配布
をきっかけに、勇気を出してメ
モを差し出してくれたから相談
につながったケースであり、改
めてアウトリーチ活動の重要性

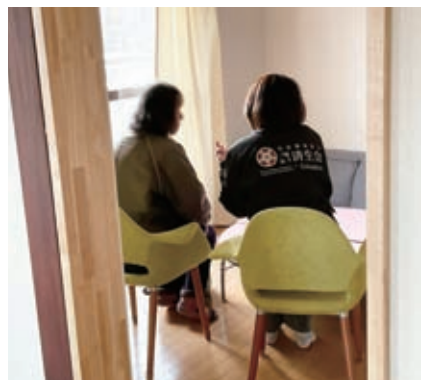
を感じました。

（地域連携課 秋山綾香）



2月22

日、宇都宮
市の「ふー
ばハウス」
で第33回き
ずなの食品
配布会が開
催されまし
た。時折風
花が舞う
寒空の下、食料支援を求め
る100世帯が来訪。米や
レトルト食品、調味料と
ともに、今回は特別にいちご
が配布され、子どもたちが
「いちごだ！」と歓声が
上がりました。寒さの中
も、笑顔が広がるひととき



となりました。

当院の医療ソーシャルワーカー
1（MSW）3人も相談支援
のために参加。生活の困りごと
を抱える母子家庭や障害者世帯、
滞日外国人などの方々の声に耳
を傾けました。

食品配布会は、単なる食料支

援の場にとどまらず、生活に
困窮する方々が気軽に相談でき
る貴重な機会でもあります。澤
村謙太MSWは「こうした地
域の取り組みに参加することで、
必要な支援を届けることができ
る」と話しました。

（地域連携課 秋山綾香）





機関誌「濟生」が 創刊100年！



1924（大正13）年6月創刊の「濟生」が発行100年を迎えました。「濟生」のあゆみを紹介します。

近代日本最大のクーデター「二・二六事件」。

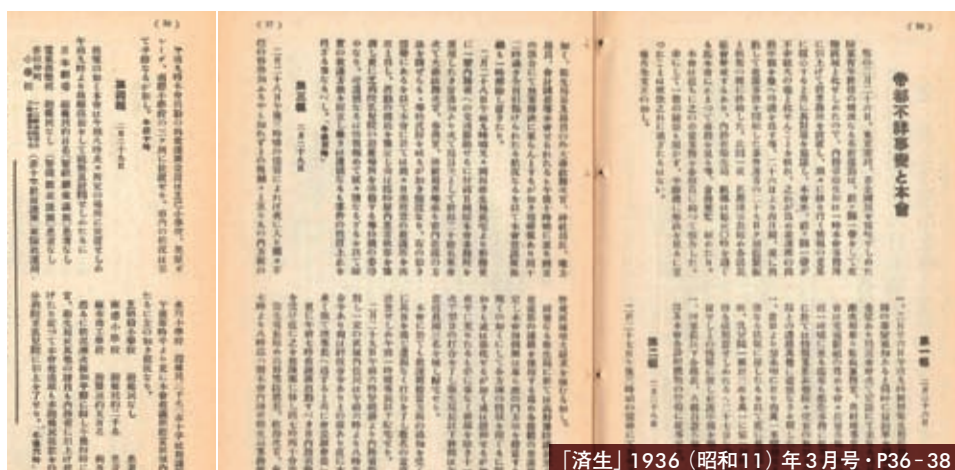
緊迫の4日間に済生会も巻き込まれました。

後編では機関誌「濟生」1936（昭和11）年3月号の「帝都不祥事変と済生会」のうち、

2月27日から事件が終結する29日の状況をお伝えします。

（株）白橋 西林芙美・本部広報課 河内淳史

二・二六事件と済生会【後編】



「済生」1936（昭和11）年3月号・P36-38

で始まります。これは前日未明の陸軍青年将校らの襲撃を受けて27日、天皇の命令で東京市内に戒厳令が施行されたことを指していると思われます。

28日も内務省の仮事務所となった済生会本部には同省職員約20人が集まりました。済生会は前日に編成した3班の救護班を4班に増員。さらに武力衝突による患者の収容に備え、芝病院乳児院（現・中央病院附属乳児院）の乳児等の避難場所の検討を始めました。

救護班出動

第三報（2月29日）

28日に済生会の救護班は虎ノ門方面をカバーするよう内務省から命令されます。打ち合わせは深夜にまで及び、内務省も済生会も当直以外の職員が帰宅したのは29日午前1時でした。

29日午前6時、警視庁から内務省の当直職員に対し、「午前6～8時頃に戒厳部隊に突入命令がある模様」と伝えられます。午前7時、ついに済生会には内務省から救護班の出動命令を受けます。7時40分、救護班は芝巴小学校、栗原ガレージ、南櫻小学校にむけて出発しましたが、3月号の「済生」には「市内の状況は至て平静なるが如し」と記されています。

2000人の避難民に対応

第四報（2月29日）

済生会の救護班は午前8時までに前述の避難所に到着、活動を開始します。警視庁や日赤の救護班も東京市内の避難所で活動しました。済生会が担当した避難所の一つ、南櫻小学校には2000人の市民が押し寄せ3人の患者の対応に当たったことが記録されています。

午後になり決起部隊は投降、首謀者は逮捕され事態は沈静しました。内務省職員は済生会の仮事務所から撤収、避難所で救護活動をしていた済生会職員も住民の退散を待って午後4時30分に芝病院や乳児院に引き上げました。

救護班の編成強化

第二報（2月28日）

第二報は「2月27日午後3時に情勢險悪したる」という記述



雪が関付近を行進する兵士。中央奥の建物は当時建設途中だった国会議事堂（写真提供：共同通信社）

編集後記でも

「済生」3月号では編集後記でも二・二六事件に触れています。

「事変勃発の朝、校正刷りを持って市電に乗っていると、銃剣を装備した兵士が雪の中に張り巡らされた鉄条網の前で構えている」と編集担当者は語っています。

さらに「ラジオが僅かに事件の重大性を報じるが事件の全容は不明。デマも飛び交う不穏な中、28日夜には戦車や装甲車が見受けられるようになり緊張はピークに。29日には交戦区域と想定される地域住民には避難命令が出る騒ぎだったが、午後になって急転直下、不測の事態は解決、安心した」と記されています。

平和の尊さ

救護班の活動の詳細については「済生」には書かれていません



慶応大学病院も救護班を出動。麹町消防署に設置された（写真提供：共同通信社）

んでした。危険地帯での活動ですから当然かもしれません。内務省の仮事務所となった済生会本部もいつ襲撃目標にされるか職員は気をもんだことでしょう。

武力に頼る行為は称賛できないが疲弊した農村を見かねて行動した決起部隊、銃弾が飛び交う恐れがあるにもかかわらず救護活動を行なった済生会職員。民衆に寄り添う思いは共通して

編輯後記

戒厳令下の帝都から「済生」3月號を御送り致します。
事變勃発の朝、校正刷りを抱いて折から降りしける粉雪の中を市電で日比谷に率かゝりますと、丸の内一帯滑倒の兵士があちこちに白雪を踏んではり回した鉄條網の中に頭をぶつけてゐる。何かあつたな！瞬間頭の中を駆け抜けたのが五・一五事件から相澤中佐事件にかけた一連の青年將校の犠牲革新運動。

それから先は彼外一つ出ない重層感の都に無気味なデマが亂れ飛んで、不得要領なラジオが僅かに事件の重大性を暗示するばかり、廿六、廿七、廿八、日は一日と空気の陰鬱化を増し、事件の全貌も略判然しかかつて戒嚴令を布かれた帝都は愈々重層の度を加へ、遂に廿八日の夜は戦車、装甲自動車、戦車、装甲車に見受けられる程の緊迫、遂に廿九日は交戦區域と見做される一帯住民に立退命令の出る騒ぎでしたが、此日午後に至つて急轉解決し、我々も漸く安堵の胸をなで下ろしたことでした。
おかげで、校正も供れて了ひました。

いたと言えなくもありません。

世界には紛争状態が続いている国があります。今年、日本は戦後80年を迎えます。改めて平和の尊さを感じました。

【参考文献】

■済生會志（創立二十五周年誌）

■機関誌「済生」

■堀賢次「済生会物語」（1995）
済生会

「済生」1936（昭和11）年3月号・編集後記

藤堂

日向



今、注目の若手俳優の一人、

藤堂日向さん。

初主演（宮澤佑さんとW主演）

となる映画『夢に生きる』では、

夢と現実のはざまで揺れる

ストリートミュージシャンを

演じています。

自身の下積み時代とも重なる

主人公の姿に共感しつつ、

“役に生きる” ために取った

驚きの行動とは……？



Vol. 179

HINATA TODO

遠くで輝いているからこそ「夢」。 近づくための努力が人生の彩になる

Text：みやじまなおみ

Photos：安友康博

Hair & Make-up：布施ほのか

人懐っこい笑顔の下で、辛酸も舐めてきた。名もない役に明け暮れていたエキストラ時代、雨でびしょぬれになり、凍えそうになった真冬の撮影、オーディションすら受けられなかった日々、悔しさで唇を何度もかみしめた。

「それでも芝居が好きという気持ちに迷いがなかったから、俳優の道を諦めることはありませんでした。映画の主人公シンジ同様、僕もまっすぐ夢を生きています」

そんな自分自身とシンジが重なって見えた。と藤堂さん。一つだけ理解できなかったのは、路上ライブをやる人の気持ちだ。「それを知りたくて、実際にギター一本担いで路上ライブをやってみたんです。最初は恥ずかしさで手が震え、ギターの弦をしつかり押さえることもできませんでした。でも、音楽で生きていきたい人にとってはこれが一つのステッブ。この経験のおかげでシンジになる足がかりができました」

今はやりたい仕事ができていると感じる。それでも落ち込んだときは？「自然の営みを見ると安心するんです。春なら新芽の力強い姿を見て元気をもらえます。僕にとっては栄養ドリンクです（笑）」



とうどう・ひなた 1995年生まれ、愛知県出身。舞台『いつか、どこかに』（2017年）でデビュー。美輪明宏氏に見出され、舞台『毛皮のマリー』（19年）で主要キャストを務める。近年の出演作に、映画『東京リベンジャーズ』シリーズ（21～23年）、『神回』（23年）、『遺書、公開。』（25年）、『世界征服やめた』（25年）、ドラマ『いきなり婚』（25年）などがある。



映画「夢に生きる」

アキラは社会人になってミュージシャンになる夢を諦め、日々の仕事に忙殺され自分を見失っていた。シンジはアキラの背中を追いかけて、ミュージシャンになるために上京。アルバイトをしながら路上ライブの日々を送っている。そんな二人が東京の街で再会。現実に向き合いながら夢を取り戻そうとするアキラと夢を追いながら現実に直面するシンジ、揺れ動く心をリアルに描いたクロスストーリー。

■監督・脚本：石田祐規

■出演：藤堂日向、宮澤佑、奏羽茜、中原シホ、林田隆志 ほか

2025年3月28日（金）全国ロードショー



口福につぼん

吉井省一

世のパティシエたちが、腕の見せどころとばかりに自慢の味を競い合う、洋菓子モンブラン。その形がアルプス山脈のモンブラン山に似ていることから名付けられたと言われています。私が「山の日アンバサダー」だからというわけではありませんが、実は大好物のひとつ。なじみの洋菓子屋さんに行った時には、必ず買って帰るほどです。さて、今回ご紹介するのは、日本を象徴する山である富士山を望む茶処静岡で穫れたお茶をふんだんに使った「深濃」なるプレミアム付きのモンブラン。



日本一のお茶処で育まれた茶葉は、多くの工程を経て色・香り・旨みの三拍子が揃ったお茶に仕上がる

静岡抹茶が香り立つ濃厚味のモンブラン
この「深濃抹茶モンブラン」をつくったのは、創業70年以上の歴史ある静岡の製茶問屋「おやいづ製茶」です。

山間地の茶畑で覆いをかけて日光をさえぎりながら丹念に栽培された、旨み成分が多い高級茶葉を使用。中でも、奥深い甘

「お茶ってこんなにおいしいの」という一言が聞きたくて始めたのが、静岡市と焼津市で開いているカフェ「雅正庵」。抹茶をたっぷり使った華やかなパフェや彩り鮮やかなジェラートなどが楽しめるお店です。ここで人気の「生搾り抹茶モンブラン」を通販だけの特別仕様にしましたのが「深濃抹茶モンブラン」。

91 深濃抹茶モンブラン



済生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

みと上品な苦み、爽やかな香りが特徴の一番茶（新茶）だけを使っているのが、製茶問屋さんならではのこだわりです。「深濃抹茶モンブラン」のつくりは、上に抹茶のモンブランクリーム、真ん中にティラミス風のクリーム、下に抹茶シロップを染み込ませた自家製抹茶スポンジケーキの豪華な3段重ね。抹茶モンブランも最近はこちらで見かけるようになりましたが、何しろこちらは商品名に「深濃」が付いているのが特徴。「特濃」でも「極濃」でもなく、使われている抹茶が、とにかく



農家などから「荒茶」を仕入れ、仕上げ加工を施す。味へのこだわりから出荷するほぼ全てのお茶は「深蒸し煎茶」。深い緑色、まろやかな香り、とろっとした強い甘みとコクが特徴

《雅正庵 by おやいづ製茶》
静岡県 静岡市

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

「深」くて「濃」いのです。

それでは、さっそく「深濃」具合を検証してまいりましょう。

見た目も食感も満ちたす ゴージャスな3層仕立て

フォークを入れる前にひとつご注意を。このモンブランには後がけの「追い抹茶」が付いています。食べる直前にこれがかかることで、抹茶の風味がより「深く濃く」なるとのこと。くれぐれもお忘れなく。

なるほど、この「追い抹茶」をまんべんなくふりかけてみると、抹茶の密度が上がり、出来



カフェの人気メニュー「雅正庵鞠福パフェ」(左)と通販人気No.1の静岡抹茶バウムクーヘン「CHIYOの和」(右)。他にも大福やクッキー、ジェラートなど、抹茶好きならチェック必須のスイーツが目白押し



1mmの極細モンブランは食感も味も繊細。お口に入るやいなやホロホロと溶け去ってしまう。上品な甘さのティラミス風クリームと抹茶が香り立つスポンジケーキとの組合せが秀逸

たて感もぐんとアップします。

一番上の直径1mmという極めて細い抹茶モンブランは、口に入れた瞬間ふわっと溶けていく滑らかな舌触り。抹茶の濃い緑色の通り、お茶の香りがむせ返るほどですが、その中にモンブランならではの栗の風味もしつかり感じられ、白餡の和の甘みもきいていて、絶妙なバランス。真ん中のクリームは北海道産マスカルポーネのコクが楽しめて甘さも爽やか。刻んだ栗とアイモンドクランチで食感にアクセントを持たせています。

下のスポンジケーキも抹茶の香りが濃く、しっとりふわふわの食感で、程良い苦みも心地よく感じられます。

これらが三位一体となって、お口の中で和洋の枠を超えた贅沢な抹茶スイーツとして完成。茶葉のプロたちが手がけたからこそその見事な出来栄です。

敬意を表して、ここはやはり濃く淹れた静岡県産のお茶を横に置いて、いただきたいもの。

さあ、日本アルプスの上高地の山開き(4月27日)ももうすぐ。この満足度アルプス級のモンブランで、一足先に「美味しさの山開き」をしてみませんか。



深濃抹茶モンブラン

[縦16.5cm×横8cm×高さ4.5cm]

3,600円(税込・冷凍送料込 北海道・沖縄・離島は送料別途950円)

賞味期限……冷凍未開封30日

お取り寄せ・お問い合わせは

雅正庵 by おやいづ製茶

〒421-0101 静岡県静岡市駿河区向敷地 1-5-38

TEL: 054-268-1123

オンラインショップ: <https://www.gashoan.com>

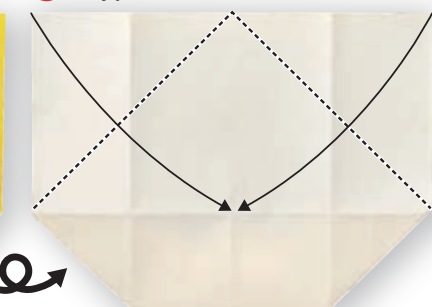
だれでもかんたん

てづくり
おもちゃ

4 裏返す



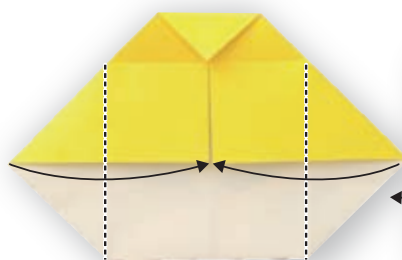
5 上の角を中心線に合わせて折る



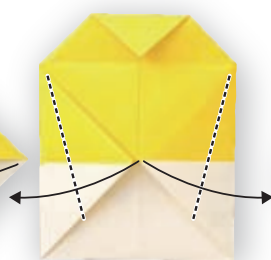
6 上の角を折り目まで折る



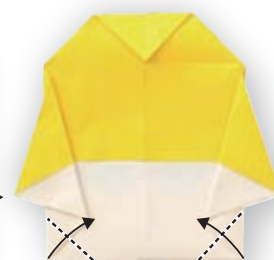
7 左右の角を中心に折る



8 点線で折る



9 下の角を図のように折る



10 裏返す

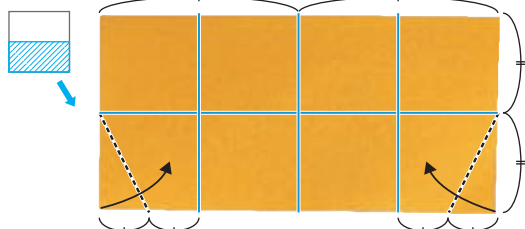


11 丸シールなどで顔をつくる

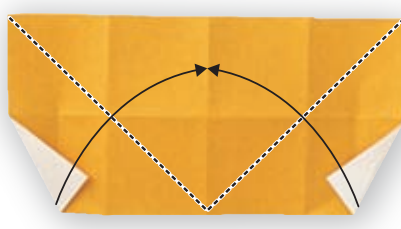


頭のから

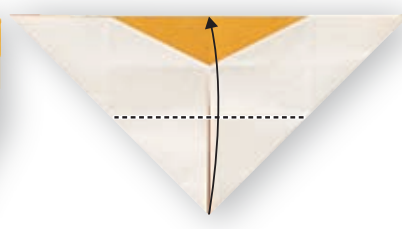
1 半分に切った折り紙を図のように折り目を付けて、下の角を折る



2 両脇を中心線に合わせて折る



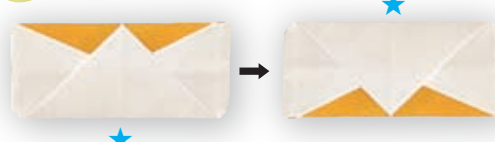
3 下の角を折り上げる



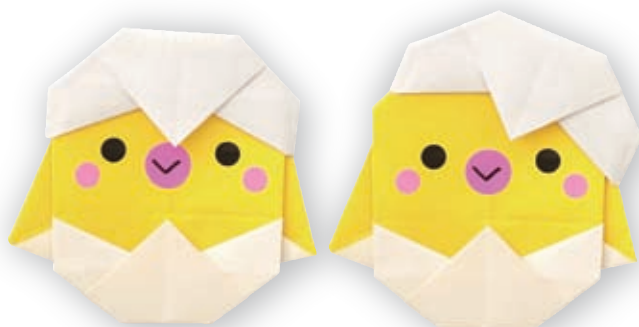
4 左右の角を折り目より3mm外側で折る



5 向きを変える



6 ひよこのあたまにかぶせ、上の角を後ろに折り、完成



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。



動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



おめでとう!! ひよこのピーちゃん

作品 いまいみさ

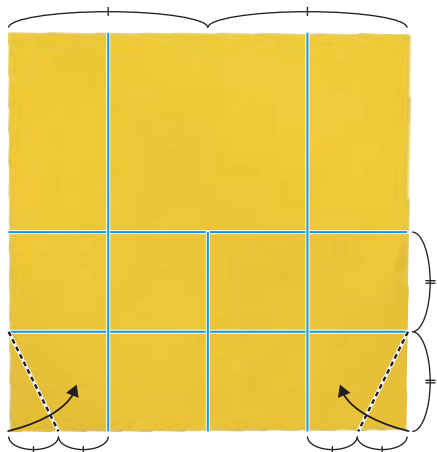


 山折り
 谷折り
 裏返す

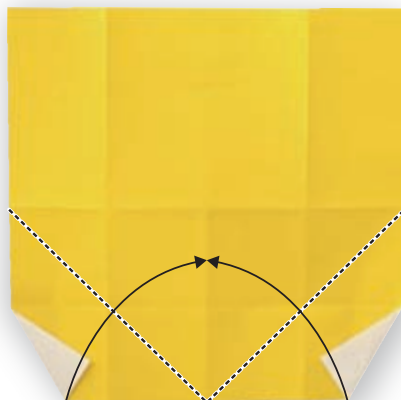
ひよこ



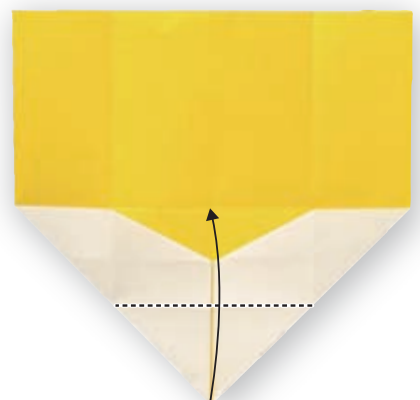
図のように折り目を付け、
下の角を折る



両脇を中心線に合わせて折る



下の角を中心に折り上げる





京都済生会病院で「けんこうとぼうさい」をテーマに済生会フェアを実施。
企業と地域団体と連携し大盛況でした。詳細は 84 ページをご覧ください。

topics



快適な通院をサポート オンデマンドバス開始

〈大阪〉泉尾病院

当院では 2 月 4 日から紹介患者さん向けの新たな送迎サービス「オンデマンドバス」を開始しました。

当院の所在する大阪市大正区は高齢化の進行が顕著で、快適で便利な移動手段が地域ニーズとして求められています。さらに当院は公共交通機関でのアクセスが悪く、患者さんの通院負担が大きな課題と

なっていました。

オンデマンドバスは、決まった経路や時刻表に縛られず、患者さんを紹介いただいた診療所がバス停となり、当院と診療所を行き来するシステムです。また、AI 技術を活用し、複数の患者さんを効率的に送迎できる最適なルートを自動計算することも可能です。

このサービスにより、患者さんの通院負担の軽減に加え、地域医療のアクセス向上と医療機関同士の連携強化を目指します。

（済生記者 高木明日実）

★高齢化対応として有意義な取り組みですね。地域医療の発展に大いに期待しています。

（本部広報課 杉山菜央）

地域医療の充実へ 野洲病院と連携協定

滋賀県病院

当院は地域医療のさらなる充実を目指し、1 月 28 日に市立野洲病院と包括的な医療連携協定を締結しました。

現在、当院では救急搬送数の増加をはじめとする急性期医療の需要が高まっており、湖南医療圏全体でも医療需要のさらなる



る増加が見込まれています。こうした状況を踏まえ、湖南医療圏・野洲市での持続可能な効果的な医療提供体制を構築するため、当院と市立野洲病院は連携をさらに強化して取り組むこととなりました。

協定締結式には両病院から9人が出席。両院長が挨拶を行ない、当院の三木恒治院長は「市立野洲病院はケアミックス病院であり、さまざまな病態の患者さんを受け入れることができます。協定によりスムーズな連携を図り、双方の機能を生かすWin-Winな関係構築を目指します」と語りました。

（済生記者 有馬真由美）

祝！介護百人一首入選

〈愛媛〉松山特養

「孫の手は認知症の母の呼び出し棒ベッドの柵をゴンゴン叩く」

当施設の在宅訪問介護職員・



亀田由美子さんの作品です。NHK財団「新・介護百人一首2024」に全国から5783人、1万2440首の短歌が寄せられました。応募者の最年少は15歳、最高齢は100歳と幅広い年齢層の中から見事入選100首に選ばれました。

亀田さんは「認知症が進み、

あまり声を出すことをしなくなった母は誰かに来てほしい際に、手元にある孫の手で柵をたたいて意思表示していた」とお母さまとのやり取りをこの首に表現。当施設が掲げる理念は「人生を尊重し、いま有する能力を生

〈岩手〉北上済生会病院

〈岩手〉花巻空港で 看護師2人が検疫訓練

2月28日、当院看護師2人が花巻空港での検疫感染症措置訓練を見学しました。当院は花巻空港が昨年4月に検疫飛行場に指定されたことに伴い、入院委託協定を締結。今回の訓練はその一環として行なわれました。

訓練では新型インフルエンザ患者

が航空機内で発見された場合を想定し、検疫対応の初動から医療機関への搬送までの流れを確認。有症者・同行者・健康監視対象者の指定から問診、診察、検査、隔離・停留、待機要請、消毒など、



かし自立した日常生活を育むことができるよう心のこもった思いやりのあるサポートをする」こと。そんな同志、支え合う訪問介護職員の皆でお祝いを兼ねて記念撮影をしました。

（事務 夏井理恵）

現場での一連の対応を学びました。

今回の訓練を通して、平時から新たな感染症の発生に備え、特性を踏まえた対応方法の確認や人材育成が必要であると感じました。また、感染拡大時の機動的な対応や医療提供体制の確保など実践的な訓練の重要性を再認識しました。

（済生記者 掛川千恵子）

「TKA」5年で2000件超

山形済生病院

2019年に導入したKinematic alignment法を用いた人工膝関節全置換術（TKA）の実施が、5年で2000件を突破しました。24年は620件の人工膝関節手術を実施してい

ます。

当院では1980年の整形外科開設以来、人工股関節と人工膝関節の手術を積極的に行なっており、常に新しい方法を取り入れ治療実績を上げる努力を続けてきました。22年には人工関節センターを開設し、専用病棟を設置。術前から術後、退院までを専門のスタッフが関わりながら治療し、医療・看護・リハビリの集約的医療を提供しています。

手術では、スタッフ全員のチーム力が不可欠です。今後も多職種のスタッフが連携しながら、質の向上を目指していきます。

（済生記者 柏倉汐里）

〈大阪〉千里病院

病院救急車患者搬送研修

3月10日、民間救命士総括体制認定機構主催による「病院救急車患者搬送研修」が当院で開催され、48人が受講しました。本研修は、病院救急車の運行に必要な知識や技術を学び、病院救急車の認知度の向上、その搬

送の安全性や質の確保を図ることを目的としています。

当日は座学やグループディスカッションによる事例検討を実



施。実技では車両の誘導やストレッチャーの操作を学びました。研修に参加した当院の池本雄太救命士は「患者対応や搬送経路、資機材について詳しく学び、他機関との連携の重要性が再認識できた」と語りました。

2024年度の現時点での当院の病院救急車出動件数は148件で、年々増加傾向にあります。今後ますますの活躍を期待します。

（済生記者 二階堂潤江）

〈大阪〉中津病院

沿道からのエールを受け 笑顔で大阪マラソン完走

2月24日に開催された大阪マラソンに、当院訪問看護ステーション所属の清水浩子看護師がメデイカルランナーとして参加しました。メデイカルランナーとは、コースを走りながらレース中に他のランナーの健康上の問題に遭遇した場合、初期対応を行なうボランティアです。

当日は大阪では珍しく雪が降りましたが、幸い対応を要請する事態もなく、ランナーに異変がないか声を掛けて体調を確認しながら、無事にフルマラソン



を完走しました。
清水さんは「メディカルランナーとして初めて参加しましたが、沿道にいる応援の方から『看護師さんがんばって』『ありがとう』とたくさんの声援をもらい、それがとても励みとなり、貴重な体験ができました。来年もぜひ参加したい」と笑顔で話していました。

（済生記者 鈴木亜希乃）

79人の子どもたちが 新生児蘇生法を学ぶ

〈大阪〉千里病院



3月2日、当院主催で第12回子どもメディカルラーを開催しました。今回は30チーム79人の子どもたちと、111人のスタッフが参加しました。
遠方の徳島から参加したチームが見事優勝を果たすなど、白熱した競技が繰り広げられました。
関西大学の学生が担当するステーションでは、ドローンを活用したシナリオが用意され、子どもたちは興味津々に取り組んでいました。

また、野外のステーションでは吹田市消防本部の方々から消火器の使い方や学び、防火服を着用して火に見立てた的に向かって水消火器を噴射する体験も行ないました。

子どもたちが楽しみながら、もしもの時に役立つ知識や技術を身につける貴重な一日となりました。

（済生記者 二階堂潤江）



topics

〈茨城〉龍ヶ崎済生会病院 小さな命を救うために 新生児蘇生法を学ぶ

2月18日に新生児蘇生法（専門コース）更新のため研修を実施しました。受講者の6人を含め、小児科医や助産師、看護師、救命士など17人が集まりました。講義後、産科病棟で演習を行ないました。使用した人形は心拍や泣き声、チアノーゼの出現などを設定でき、見学者も興味津々。蘇生法の評価ソフトと人形を接続し、蘇生法を実施していくと、受講者は少しずつ感覚をつかみ、最終的には質の良い蘇生を行なうことができました。



最後は受講者が3人1組になり、シナリオ演習を複数回行ないました。蘇生までの時間が長く感じられるほどの緊張感があり、赤ちゃんの泣き声が聞こえたときには見学者も一緒になってほっとしていました。

（済生記者 堀越琴美）

〈栃木〉宇都宮病院 心臓血管外科低侵襲症例の 最新動向を共有

2月27日、当院研修室で「済生会心臓血管外科低侵襲症例検討会」を開催しました。本会はハイブリッド形式で実施され、院外14人・院内15人の計29人が参加しました。

会の冒頭では、心臓血管外科

の橋詰賢一主任診療科長から診療科の紹介がありました。その後、同科の河西未央医長が「大動脈解離治療について」、放射線診断科の八神俊明医長が「胸部大動脈瘤に対して自作開窓型ステントグラフトで対応した1例」、心臓血管外科の森光晴診療科長が「MICS手術の標準化・低侵襲心臓手術の現状」と題してそれぞれ講演。

低侵襲手術の最新動向を共有し、より安全で効果的な治療法について検討する有意義な場となりました。

（地域連携課 秋山綾香）



〈静岡〉療育センター令和 施設が水族館に早変わり！

1月に「ゆめ水族館」の機能を搭載した移動型プロジェクト「シンカー（ファンタスカ）」を借りて、施設内で水族館を楽しみました。

「ゆめ水族館」とは、映像、音楽、スクリーンを組み合わせた空間の中で、視覚、聴覚、触覚などを通じて豊かな感覚刺激を体験できるセイコーエプソン株式会社の社会貢献活動です。スクリーンや壁、天井、寒（かん）紗（し）（布）に映像を映し出すと、室内が水族館に早変わり。約30



人の入所者さんは泳いでいる魚を追いかけたり、迫力のある映像に目を丸くして驚いたり、触れてみたり。幻想的な空間と音楽にウトウトしている方もいま



した。

また、せっかくの機会なので
外来患者さんや地域の人にも見
てもらおうと施設のさまざまな
場所で投影。鮮やかできれいな
水族館を目の前で楽しむでき
な体験ができました。

（済生記者 大須賀彩音）

新潟県央基幹病院

PUSHで救命を学ぶ

胸骨圧迫やAEDの使い方を
広め、もしものときに助け合え
る地域づくりを目指すPUSH
プロジェクト。救急看護認定看
護師の八鳥公男さんはこの取り
組みを推進しているこうと、イン
ストラクターの資格を取得。そ
のお披露目として2月20日、院
内で職員向けのPUSHコース
（短時間の救命講習）を実施し
ました。

講習では映像で救命の方法を
学んだ後、手を動かして実践練
習を行いました。紙の上に置
いた心臓マークを押す、紙に書
かれたショックボタンを押すと
いったシンプルな形式のため、
場所を選ばず気軽に学べるのが
この講習の魅力です。

「医療者だけでなく、市民でも



迷わず行動できる人が増えるよ
う、PUSHを通じて心肺蘇
生法を普及させたい」と意気込
む八鳥さん。今後は院外で市民
等に向けたコースを実施予定で
す。

（済生記者 渡邊真衣）

〈滋賀〉守山市民病院

看護の質向上を目指して

看護部主催の「看護研究発表
会」を2月21日、当院くすの木
ホールで開催しました。看護の
質の向上を目的として毎年行な
っているもので、審査員を含む
50人が参加。全8演題の発表が
行なわれました。

優秀賞を受賞したのは感染管



理室の宮脇舞子室長代行（感染
管理認定看護師）で、テーマは
「入院中のCOVID-19（新
型コロナ）陽性患者の隔離期間
短縮の試み」。新型コロナウイルスは感
染時の隔離期間が医療機関ごと
の判断となっていることから、
感染拡大を防ぎつつ、隔離によ
る患者さんの心理的・身体的な
負担の軽減を目指した取り組み
についての発表でした。

審査員を務めた野々村和男院
長は「年々内容が充実している。
今後、関連学会など病院外でも
広く発表していくことが期待で
きる」と総括しました。

（済生記者 中嶋元香）



〈兵庫〉特養ふじの里 大好評の焼き肉パーティー

3月5日、西館西町3丁目の食堂で入居者さん8人・職員4人が焼き肉パーティーを楽しみました。

入居者さんに食べたいものを聞いたところ「お肉が食べたい」という意見が多くあり、どのような肉料理が食べたいかアンケートをとった結果、満場一致で焼き肉パーティーの開催が決定しました。

当日は朝から「楽しみやなあ」と待ち遠しそうな入居者さんたち。いざホットプレートでお肉を焼き始めるとフロアにいい香りが広がりました。たくさん用



トリリオンカジノの近くの病院として登場

話題の映画のロケ地に

岡山済生会総合病院

当院がロケ地として撮影協力した映画「劇場版トリリオンゲーム」が2月14日に公開初日を迎えました。映画の中で当院の病室が登場し、物語の重要なシ

意したはずのお肉は「やわらかくておいしい」「もつとちょうどいい」とみるみるうちになくなっていました。

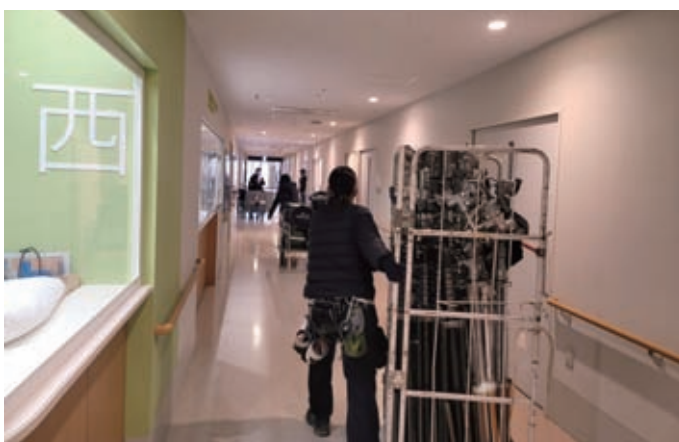
終了後は「おいしかったから、またしてな」との感想があり、次年度も焼き肉ができる機会をつくろうと思いました。

(西館介護課 介護士

円口貴美子)

ーンとなっています。

撮影は昨年2月23日に実施。岡山県フィルムコミッション協議会から依頼があり、地域の魅力を広く発信し地域活性化につなげることを目的に、地域振興



の一環として行なわれました。地域医療に携わる病院として、このプロジェクトに協力できたことを大変光榮に思います。映画をご覧いただく際には、ぜひ当院が登場するシーンにもご注目ください。

(済生記者 高畑貴子)

〈埼玉〉川口乳児院

笑顔満開のひな祭り

全3クラスの女児11人の健やかな成長を願い、3月3日に院内のプレイルームでひな祭りを行ないました。

今年は感染状況も落ち着いていたため、医療ケアのクラスの子どもたちも一緒に参加するこ



とができました。

女児たちはそれぞれ着物やドレスでおしゃれをして参加。保育士によるひな祭りの出し物を楽しみ、「うれしいひなまつり」を歌いながら、パネルシアターに夢中になる姿が見られました。夕食は調理員さんの心のこもった、かわいらしい行事食をいただきました。

こうしたイベントを通じて、子どもたちが一つでも多くの楽しみを見つけ、一日でも多く笑顔で過ごせますように。

（済生記者 大貫典子）

〈大阪〉新泉南病院

運動で元気な毎日を

1月17日、イオンモールりんくう泉南で第26回市民公開健康講座を開催しました。本講座では参加者の皆さんに充実した日常生活を過ごせるように、当院の島本幸子医師と久保貴幹理学療法士が「運動をして、もっと元気に」のテーマで講演を行ないました。

日常生活において、体の動作に不自由のない状態を保つことがいかに重要であるかを伝え、運動による改善方法を説明。適



切な運動を行なわなければ、高齢になるにつれて介護が必要になるリスクが高まるため、約30人の参加者に有酸素運動とレジスタンス運動を体験してもらいました。体験することで皆さんは正しい運動方法を理解し、その有用性を実感できたと思います。

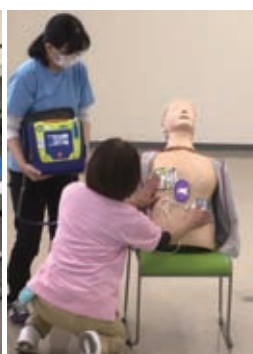
（済生記者 荒田安章）

〈山形〉小白川ケアセンター

全職員が緊急時対応を学ぶ

昨年12月からの3カ月間、当センターの看護職員が中心となり心肺蘇生・AEDの研修会を計4回行ない、54人の職員が参加しました。

高齢者や乳幼児が利用する



当センターでは全職員が心肺蘇生・AEDの研修会を受け、緊急時の対応を学んでいます。参加者からは「心臓マッサージの仕方が難しかったが、いざというときに役立つから研修を受けて良かった」などの感想がありました。

施設内だけでなく、実際に救急の現場に立ち会った際にも素早く対応ができるように、研修を通して学ぶことができました。

（済生記者 岩城多香代）

〈山形〉特養ながまち荘 勤続30年を振り返って

2月7日、ホテルメトロポリタン山形で「山形県済生会永年勤続表彰式」が行なわれました。当荘からは30年表彰の岩崎勝也施設長や筆者を含む4人が表彰されました。当日は山形済生病院をはじめ、7カ所の福祉施設の表彰者が一堂に会し、済生会の歴史とつながりを感じる貴重な機会となりました。



左から大波孝至さん、岩崎勝也さん、野口美也子さん(筆者)、種本佳奈恵さん

30年を振り返ると、うまくいった思い出よりも、できなかったことがいつまでも心に残っています。それでもここまで続けられたのは、困ったときに助けてくださった先輩方、同僚、後輩、関係する皆さんのおかげであると思っています。

これからは私がその一翼となるべく、できることを丁寧に積み重ね、よりいっそう励んでいきたいと思っています。

(なでしこ地域包括支援センター
保健師 野口美也子)

〈長野〉佐久市特養 シルバードランドみつ 楽しくできる認知症予防

3月9日、地域の方々を対象に認知症予防教室「いきやしょみつい」を開催しました。コロナ禍で中断していましたが、佐久市民の日協賛事業の一環として再開しました。

参加した14人は、軽いストレッチや認知症予防効果があるとされる脳トレを通じて、楽しい時間を過ごしました。特に、体と頭と指先を使ったゲームは脳の活性化につながったようでした。教室開始時の緊張した顔つ



きから、終了時には「楽しかった!」「またやりたい」という感想とともに明るい笑顔に変わった参加者の姿が印象的でした。また、参加者の皆さんには地元の日野屋さんのおいしい桜餅をお土産としてお渡ししました。

(済生記者 山浦裕子)

山口総合病院

「腎臓病ってな〜に?」 刑務所で講演

2月21日、ソーシャルインクルージョン事業として、山口刑務所で当院の今井剛副院長が腎

疾患についての講演を行ないました。

健康意識向上を目的に「腎臓病ってな〜に?」のタイトルで行なわれ、今井副院長が腎臓の機能や病気の種類などについて説明。講演後は受刑者から「若い人でも腎臓病になるのか」「以前血尿が出て結石と言われたが腎臓の病気の可能性もあるのか」など多くの質問が寄せられました。

当日は251人の受刑者が参加し、真剣な表情で講演に聴き入っていました。今回の講演



会を通じ、受刑者の皆さんが今後の生活改善を踏まえて健康意識を見直すきっかけづくりができたのではと感じます。

(MSW 田中絵美)



「デジリハ」活用法を伝えるにインドへ職員派遣

〈北海道〉みどりの里

インドの特別支援学校でデジリハの導入が始まっているとのこと、2月5～11日、筆者は現地の先生方を支援するため、

から導入しています。

インドの特別支援学校の先生方は「ツールを使いこなしたい」という熱意にあふれ、積極的に課題を共有してくれました。筆者は当施設で培ったノウハウをもとに、センサーの活用や支援についてポイントを直接伝え、デジリハの楽しさを説明しました。

（通所事業支援室長 兼 療育医療技術室課長 兼 企画調整室課長／作業療法士 小玉武志）

福井県済生会病院

事務部でワールドカフェ

2月下旬～3月中旬に事務部内でワールドカフェを4回開催し、職員120人が参加しました。これまでも何回か開催していますが、今回は「今後の人材育成の取り組み」をテーマに、同世代の職員同士でグループを構成。世代ごとの視点を生かしながら、テーマに対する意見交換や情報共有を行いました。

参加者からは「若手が成長できる体制づくりが重要」「職員

が長く働き続けられる職場環境の整備」など、活発な意見が寄せられ、世代ごとの課題や期待が明確になりました。また、同世代で情報を共有し交流が深まる貴重な機会にもなりました。

（総務・企画課 山村健太）





熊本病院

透析医療の知識・技術向上 4年ぶりのセミナー開催

第7回済生会透析セミナー
熊本が、2月23日に熊本

城ホール大会議室で開催されました。参加人数は1000人を超え、透析患者の合併症対策をテーマに行なわれました。

このセミナーは2018年に熊本で第1回が開催されて以来、東京、岡山、水戸、北九州、横浜と各地で開催されてきましたが、21年にはコロナ禍の影響で一時休止され、4年ぶりの開催となりました。

当日は大会長の当院腎臓科部長・副島一晃医師をはじめ、透析室所属スタッフや多職種（医師、薬剤師、臨床工学技士）の講師がそれぞれの視点から透析医療の症例を紹介。参加者にとって貴重な学びの機会となりました。

次回セミナーは、来年2月に山口県で開催される予定です。

（医療秘書室 末藤のぞみ）

春の筑紫野をウォーキング

〈福岡〉二日市病院

3月1日、筑紫野市で開催されたコープ共済健康づくり支援イベント「コーすけウォーキング筑紫野」にブースを出展しました。当日は筑紫野市役所をスタートし、紫藤の滝や武蔵寺な



どの史跡、二日市温泉を巡る約6キロのコースを約400人も参加者が春の訪れを感じながらウォーキング。スタート時の空は快晴で、絶好のお散歩日和となりました。参加者の皆さんも、思い思いに景色を眺めたり、会話を楽しんだりしながら、ウォーキングを楽しんでいる様子でした。

当院はより効果的にウォーキングを楽しんでもらえるように、スタート前に理学療法士による歩き方レクチャーを実施。骨密度測定と体組成測定の実施コーナーも設け、ゴール後は多くの方が自身の健康状態を

確認していました。

（済生記者 久富大史）

〈茨城〉水戸済生会総合病院 脳の健康寿命を伸ばそう

2月8日、イオンモール水戸内原で市民公開講座「脳の健康寿命を伸ばそう」を開催しました。本講座は未来に向けた持続可能なまちづくり協定に基づく



取り組みとして企画しました。

脳神経内科・木村健介主任部長、脳神経外科・小磯隆雄部長、浅井佳子認知症看護認定看護師による講演、高齢者体験ブース、認知機能チェック等の健康相談イベントは大好評。当日は188人の地域住民が来場



し盛会となりました。参加者からは「脳卒中予防をすぐに始めたい」「認知症の家族との接し方がよく分かった」といった声が寄せられました。

認知症の最新治療について講演した木村医師は「地域住民の脳疾患を少しでも減らせるよう今後も継続して開催したい」と意気込みを語りました。

（済生記者 今野正俊）

〈鳥取〉境港総合病院 事務職員の交流研修

2月19日、事務職員交流制度での研修体験についての院内報告会を当院会議室で開催しました。これは他病院の業務内容や方法を直接学ぶ事務職員交流制度での研修内容を共有するための報告会で、19人が集まりました。

今回、総務課の坂本佑太さんは福井県済生会病院総務課でDX化による総務業務の効率化について、総務課の松田智美さんは〈神奈川〉横浜市東部病院人材開発センターで人材育成について、医療サービス課の森脇知里さんは〈大阪〉中津病院医療サービス課で入院系の業務



内容について研修を受け、それぞれの研修体験や自院・自部署での活用案を報告しました。

報告者からの具体的な活用案の提案を聞き、参加した職員からも「人材教育や各部署でのマニュアル整備を進めていきたい」という声が上がりました。

（済生記者 亀尾美子）

〈広島〉特養たかね荘こやうら 子どもたちと振り返る 西日本豪雨災害

2月19日に地元の坂町立小屋浦小学校5年生7人と施設利用者30人の交流会を開催しました。平成30年7月に発生した西日本豪雨災害でこの小屋浦地区は



甚大な被害を受けました。大半の児童がこの災害を経験しており、自らの経験や防災についての知識を盛り込んだ紙芝居を作りし、当施設の皆さんに読み聞かせをしてくれました。

利用者の皆さんは子どもたちによる紙芝居を聞きながら、時に笑い、時には涙を流していました。子どもたちの純粋な思いとともに、防災の大切さを改めて実感した時間となりました。

（済生記者 坂本洋司）



小学生が音楽で届けた 癒やしのひととき

神奈川県病院

2月20日と3月11日、南神大
寺小学校5年1組の児童21人が



入院患者さんの前でアカペラを披露しました。児童たちは音楽療法の学習で、神奈川大学アカペラサークルの指導を受けながら練習を重ねてきました。

当日は、緩和ケア病棟や地域包括ケア病棟で歌を披露。移動ベッドや車椅子の患者さんも参加し、手話を交えた動きで一緒に楽しみました。歌を聞いて感動の涙を流す患者さんの姿も。児童たちは「一緒に手話をしたり、手を振ったりしてくれてとても楽しかった」「音楽で癒やしを届けられてうれしい」と笑顔を見せていました。

最後に、長島敦院長から感謝状が贈られ、北海道済生会から提供してもらった「おたる水族缶」をプレゼントすると、児童たちは大喜び。音楽を通じた温かな交流の時間となりました。

(済生記者 小山友輝)

山形県済生会

若手の登竜門に60人超 ケアフォーラムで情報共有

2月2日、第7回山形県済生会ケアフォーラムが開催されました。本フォーラムは若手職員の登竜門として、業務改善や人

材育成、ケアの質の向上などをテーマに自由に研究を発表する場となっています。今回も山形県済生会の各施設から60人以上の参加があり、さまざまな取り組みが報告・共有されました。最優秀賞に輝いたのは山形訪問看護ステーションの「訪問看護ステーションにおける災害への備えに関する取り組み」。ま



た、優秀賞には特養ながま荘の「自然排便を目指して」と、はやぶさ保育園の「配慮が必要な子どもの現状とそこから見えてくる課題」が選ばれました。

今回の研究発表がゴールではなく、良い取り組みは今後も継続し、本フォーラムで得た気付きをもとにさらに良くしていけ

topics

ればと思います。

(老健フローラさいせい

事務職員 山田沙也加)

〈佐賀〉唐津病院

こども支援活動をサポート

2月12日、地域のこども食堂の運営をはじめ生活困窮者



の支援や地域の交流促進などを行なっているNPO法人KARATSUの生駒明子代表に園田孝志院長が寄付金をお渡ししました。この寄付金は1月6〜31日に当センターの職員から募ったものです。

唐津市では現在20カ所程度のこども食堂が活発に運営されています。当院は活動費の寄付や物品の寄贈をしたり、イベント

のお手伝いをしたりすること

で支援。今は新学期を前に職員

から不要な学用品などを募って、

同法人の「学用品・制服ドライ

ブ」活動の支援をしているところ

です。

地域の子どもたちが安心して

学び続けることができるように、

今後も地域のこども支援活動の

お手伝いをしていきたいと思

います。

(済生記者 相島蘭香)

〈山口〉豊浦病院

祝！看護師一年生卒業

3月6日、2024年度新人看護職員6人(1人欠席)を



対象に、プリセプティ1年目研修を行ないました。

この研修は、1年間で習得した知識・技術・態度を振り返って発表することで、自分自身の強みと弱みを知り次年度の課題を見つけることを目的とします。

スライドショーでは1年間の思い出や病棟スタッフからのメッセージが流れ、涙ぐむ場面も最後に所属長から修了証を手渡し、記念撮影を行ないました。

一年生卒業、おめでとうございます。4月からは先輩看護師になります。自分がされてうれしかったこと、かけられてうれしかった言葉を次の新人看護師に対して心掛けてくれればと思



います。

これからも病院一丸となって

「とよさい」を盛り上げていき

ましよう！

(済生記者 西田千鶴)



topics

入居者の我妻さん アート展で入選

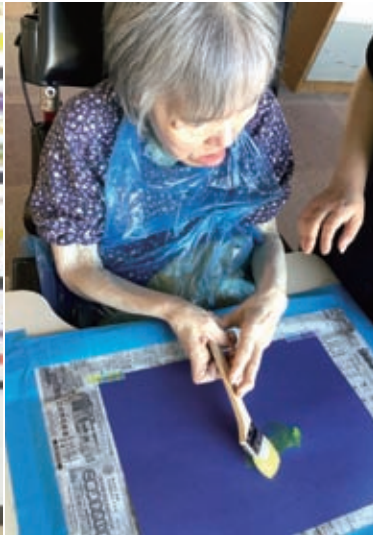
〈山形〉特養ながまち荘

きわ輝いており、とても素晴らしかったです。

（介護職員 西塔有芽香）

第9回やまがた障がい児者アート公募展「Art Digるゝべ（アート デイグるゝべ）」で、応募総数125点の中から入居者の我妻みつ子さんの描いた絵が見事入選しました。

当荘で取り組んでいる臨床美術を用いた活動で制作した作品



で、題名は「たべたいな」。好きな絵の具の色を選んで、白い画用紙に自分の好きなように塗ったり、絵の具を垂らしたりして表現しました。

我妻さんは2月18日に作品が展示されている「ざらりーら・ら」に担当職員と一緒に行ってきました。額縁に飾られた作品はひと

介護を詠んだ俳句で優秀賞

〈群馬〉前橋病院

「からからと語らう介護冬暁」
2月16日に行なわれた第77回済生会学会「俳句済生会」で、筆者が詠んだ句が優秀賞を受賞しました。

当院の看護管理者には永年勤続30年前後の同年代が多くいます。子育てが一段落すると介護の問題が出てきます。専門職として対応方法を十分に知っているものの、当事者となると途端に素人の感覚に陥ります。



両親や義父母が変わっていく過程を受け入れるのは非常に辛く、悲しいことです。だからこそ、からからと明るく介護を語り共有することで、冬のように先の見えない苦しさの中、一筋の明かりを見いだしていこうとする、そんな看護部でありたい——このような思いを込めて言葉と並べてみました。

販売機の補充作業を行ないました。

この作業訓練は、就労に必要な知識や作業内容などをより実践的に習得できるように毎月2回実施しています。今回は利用者さん9人が参加し、当園ロビーに設置してある自動販売機の



います。

（看護部長 山賀理恵）

〈神奈川〉金沢若草園

自販機補充作業を経験

東京キリンビバレッジ株式会社の協力のもと、2月19日に利用者さんの作業訓練として自動



補充作業を行ないました。利用者さんからは「麒麟の会社で補充を行なう仕事をやりたい」「今回はミルクティーが一番売れたね」などの声が上がりました。

自動販売機の補充作業は、商品の補充だけでなく、お金の管理や季節ごとの商品入れ替え、清掃作業など多岐にわたります。利用者さんの技能範囲を広げる取り組みや、作業環境の確保などを進め、就労機会の増進につなげていきたいと思っています。

（済生記者 日高 純）

〈福岡〉飯塚嘉穂病院 防火管理を評価され表彰

3月6日、飯塚地区消防本部で令和6年度優良事業所表彰式が行なわれました。当院が表彰を受け、関口直孝院長と防火管理者である塩嶋浩輔総務課長が出席しました。

この表彰は、消防用設備等の設置・維持管理が適切で、防火管理業務の推進に顕著な業績がある事業所に対して、毎年1事業所のみに贈られる賞です。式典では、当院の日頃からの防火への取り組みが高く評価され、



賞状と盾が授与されました。

関口院長は「患者さんの安全を第一に考え、職員一丸となって防火管理に取り組んできた成果が認められ、大変光栄です。今後もより一層、防火対策に努めます」と受賞の喜びを語りました。

（経営企画室長 春口勇介）

岡山済生会総合病院

公式noteはじめました

2月25日にnote公式アカウントを開設し「オープン社内報（社会にオープンな院内

報」の発信をスタートしました。

当院に限らず、

医療機関には全国の皆さんへお伝えしたい情報がたくさんあります。それらを誰でも読めるオープン社内報として発信することで、病院や全国の済生会、さらには医療全体をより良くするための意見交換のきっかけになればと考えています。

掲載記事のジャンルは、病院の「シゴト」「ブランド」「ミライ」。業務改善活動や働きがい、などでしこプラン、イベント、職員研修記などにフォーカスし、当院の職員が持つ知識や成功事例など、積極的に発信していきます。

興味のある方は、ぜひフォローをお願いします。

（済生記者 高畑貴子）





〈大阪〉中津病院 ボランティアさんに感謝

3月6日、中講堂でボランティアさんの2024年度の活動時間表彰「第10回こもれび総会」が行なわれ、13人のボランティアさんが参加しました。

「こもれび」は当院ボランティ

アグループで、約40人が活動。主にロビー案内、院内コンサートの行事活動、病院外周の花の手入れ、情報ライブラリー（患者図書室）の開館サポートなどを行っています。

森山明宏院長補佐から開会の挨拶があり、その後、志手淳也院長が日頃の活動への感謝を述べ

静岡医療福祉センター ライトホーム

マッサージいかがですか

3月15日、「心のバリアフリーイベント」が静岡市役所前の青葉シンボルロードで行なわれました。

この催しは障害や、障害のある人についての理解と認識を深めるとともに、障害のある人があらゆる分野の活動に積極的に参加するなど、障害福祉の増進を図ることを目的としています。

ステージ発表、授産所の物販ブースなどがあり、当施設はあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の資



格を持つ指導員と研修生の3人で無料マッサージ体験のブースを出展。来場者55人にマッサージを実施しました。Jリーグ清水エスパルスのマスコットキャラクター「バルちゃん」がマッサージ体験ブースにも来てくれました。

（済生記者 鈴木亜希乃）

（済生記者 伊藤昌代）

〈千葉〉習志野病院 地域とつながる相談会 イオンタウンで初開催

1月30日にイオンタウン東習志野で「なでしこ健康相談会」を開催しました。

健康相談会は近くの商店街などで毎月行なっていました。当日は、循環器内科・白石博一医師が医療講演「心臓の健康を守



ろうく狭心症、心筋梗塞、不整脈について知っておきたいこと」と題して、心臓の病気やその兆候、検査や治療法について説明しました。心疾患について



関心を持っていただく機会となりました。

そのほか、看護部・栄養科・健診科・福祉相談室がそれぞれ相談ブースを設けました。

今回の健康相談会はイオンタウンの方々にも協力いただき、延べ73人が来場。地域の方に当院を知ってもらい、より多くの方が健康について考える機会になったと思います。

(福祉相談室長 村田智美)

福井県済生会病院

アピアランスケア研修会 外見の悩みに寄り添う

3月12日、当院でアピアランスケア医療従事者研修会を実施しました。本研修は厚生労働省が推進するアピアランス支援モデル事業の一環で、病院職員や地域連携の医療機関に向けて行ないました。

宗本義則副院長の挨拶の後、アピアランスケアの専門家が講演。第一部ではAYA世代のがんに関する現状と支援、第二部ではがん治療における頭皮のケアについて学びました。

院内外から約40人が参加し、患者さんの外見に関する悩みに



寄り添うための知識を深める機会となりました。

(総務・企画課 山村健太)

〈兵庫〉小規模特養なでしこ

神戸

笑顔が続きますように

3月3日、入居者さん29人が参加し「ひな祭り行事」を行ないました。

娘や孫と過ごしたひな祭りを思い出し、春の訪れを感じてもらえるような一日であってほしいと願い開催。女性はお雛様の玉串を、男性はお内裏様の冠を模した被り物をして、雛壇を觀賞しながら写真を撮りました。

入居者さんからは「私の家の和室にはもっと大きい雛壇が飾



ってあったのよ」「私は片付け大変だから掛け軸だった。いつまでも出していたらお嫁にいけないでしょ」とそれぞれのひな祭りの思い出話が聞けました。

(なでしこ介護課 介護士 石飛裕子)



長崎福祉センター

**温かな気持ちで満たされ
「よか見物ができた」**

デイサービスでは年間を通じてさまざまなイベントを企画しています。2月4・6日には、冬の一大イベント「ランタンフェスティバル」に計11人の利用者さんと職員が出かけました。

この催しは中国の「元宵節」にちなんだ行事で、長崎新地中華街をはじめ市内中心部が極彩色のランタンで飾られ、幻想的

な光景を作り出します。鮮やかに彩られた街並みを見た参加者の皆さんからは「きれかね〜」

「よか見物ができた」といった感激の声が上がりました。

また、「天気も良くて気持ちよかった」という意見も多く、冬の清々しい空気の中での散策は、心身ともにリフレッシュする良い機会となったようです。「夜だとさらにきれいだろう」との声も聞かれました。

(済生記者

川端 誠・川瀬義博)

〈東京 中央病院 参加イベントの告知で ラジオに初出演

3月13日、東京都港区浜松町の文化放送でラジオ番組「長野智子アップデート」に出演し、3月15日にみんなとプロジェクトで参加したイベント「竹芝みなとフェスタ」を紹介しました。

みんなとプロジェクトでは、戸板女子短期大学と埼玉県にある福祉工房にいぎにレシピ開発を依頼し、しばみつと国産レモンを使用した焼き菓子「レモハチマフィン」を商品化。その初回販売を今回のイベントで行な



うため、ラジオで告知することになりました。番組では戸板女子短期大学食物栄養科学生の渡辺翼さんと一緒に、プロジェクトの紹介とレシピ開発のエピソ

ードを話しました。

ラジオでの情報発信は初めてでしたが、パーソナリティの2人にとっても和やかな雰囲気を作っていただき、緊張しながらも楽しむことができました。

(入退院支援室 佐藤弘恵)

〈岩手〉岩泉病院

**雛祭りを彩る七段飾りで
無病息災を願う**

当院では、地域とのつながりを大切にする一環として、地域



topics



住民の方から譲り受けた「雛人形七段飾り」を、雛祭りに合わせて院内ホールに設置しました。この雛人形は地域の幼稚園で長年にわたって使用されたもので、その豪華絢爛な雛人形に、予防接種のために来院した子どもたちが目を輝かせていました。また、患者さんや院内スタッフからは「きれいだね」とって

も豪華だね」といった声が聞かれました。

新型コロナウイルス感染症などいまだ油断ができない中、無病息災を願う季節の行事に触れられたことをうれしく感じました。
(済生記者 中嶋亮三)

滋賀県病院

看護人材確保・定着の取り組みを紹介

2月20日、厚生労働省主催の「令和6年度医療専門職支援人材活用セミナー」で、松村智子看護部長が当院での看護補助者の確保・定着に向けた取り組み

事例を紹介しました。

松村看護部長は、看護部が他部署と連携して経営に参画することの重要性を強調。経営企画課と連携し診療報酬改定の流れを分析した上で、看護補助者増員によるタスクシフトを実施した事例や、人事課と連携した新規人材確保と雇用定着に向けた求人活動の促進、独自のキャリアラダーによる人材育成などの取り組みについて説明しました。

当日は約500人がオンライン参加し、今回のテーマへの関心の高さがうかがえました。

(済生記者 有馬真由美)

〈熊本〉みすみ病院

永年勤続表彰で 思い出話に笑顔咲く

3月3日、済生会永年勤続表彰の伝達式を院内で行ないました。

今年は20年表彰6人、10年表彰16人の合計22人が表彰を受け、吉岡正一院長が表彰状と記念品を授与した後、お祝いの言葉を述べました。被表彰者代表の謝辞では、昔の懐かしいエピソードが語られ、笑いを誘う場面もありました。



数年前までは10年表彰が中心でしたが、開院から20年が過ぎたことでうれしいことに20年表彰を受ける職員も増えていきます。長年、尽力してくれている職員の皆さんへ感謝するとともに、これからも当院やこの地域と一緒に盛り上げてくれることを切に願っています。

(済生記者 船橋麻紀)

topics

活動成果報告会に7演題

〈神奈川〉横浜市東部病院

2月21日、当院多目的ホールでTQM Annual Meeting 2024を開催しました。昨年に引き続き開かれた本会は、部署やスタッフによるさまざまな活動成果報告会で、当日は44人が聴講。演題は全部で七つあり、三つのセッションに分かれて行なわれました。



放射線部による報告書の未読対策、人工呼吸器ケアを学ばない看護師に向けたブレンドドラーニングを取り入れたシミュレーション教育、骨代謝センターによる骨粗鬆症治療と予防など、多様な取り組みについての発表がありました。

会の最後に、三角隆彦院長が「いずれの演題も内容や発表方法に工夫が見られ、素晴らしいかった。毎年恒例の会となりもっと多くの職員に知ってほしい」と講評しました。
(済生記者 荒木愛美)



フォーラムで地域連携強化

〈大阪〉泉尾病院

2月1日、地域医療機関との連携強化を目的として「大正泉尾フォーラム」をホテル日航大阪で開催し、現地・オンライン合わせて150人が参加しました。

フォーラムでは、当院薬剤科・三箇山宏樹主任科長が「医療用医薬品の安定供給」について講演した後、近畿大学病院心臓血管外科・坂口元一教授が特別講演「心臓弁膜症に対する低侵

襲手術と抗凝固療法」を行ない、参加者に深い知見を提供しました。また、各診療科の医師による診療科紹介も行ないました。各講演内容に関して参加者からの積極的な質問もあり、非常に充実したフォーラムとなりました。



院長の熱唱でフィナーレ

〈福岡〉飯塚嘉穂病院

3月7日、当院3階の回復期リハビリテーション病棟で春の演奏会を開催しました。長期入院中の患者さんを元気づけよう

と企画されたもので、医師やリハビリスタッフなどの有志によるバンド「K's music club」が演奏を披露しました。
患者さん約35人とスタッフ約15人が集まり、演奏が始まると皆が笑顔に。患者さんたちは瀧



廉太郎の「花」、ゆずの「栄光の架橋」などの演奏に合わせて手拍子をしたり、口ずさんだりしながら音楽を楽しんでいました。
演奏会のフィナーレでは、サプライズとして関口直孝院長が登場し、コブクロの「桜」を熱唱。会場は大いに盛り上がりました。



終了後も患者さんからのリクエストに応え、院長は患者さんと

デュエットを披露しました。
(経営企画室長 春口勇介)

第1回研究会に22施設・62人が参加

全国済生会ロボット支援手術研究会

1月18日、東京都内で全国済生会ロボット支援手術研究会を開催しました。今回が1回目です。「医療改善と病院経営事例報告」「各病院での取り組みの情報共有」を目的に、22施設から医師・看護師など62人が一堂に会しました。

〈神奈川〉横浜市東部病院の三角隆彦院長、滋賀県病院の三木恒治院長の挨拶で始まり、筆者が会の主旨説明を行いました。

Executiveセッションでは



病院経営とロボット支援手術導入に関わる演題を二つ、同様にExecutive Surgeonセッションではロボット支援手術のスタンダード化と臨床改善によるトータルコストケアの2演題を発表。また、後半ではDa Vinci最新機種SPを使用した事例紹介や手術室看護師による発表がありました。

(代表 石田 勝／横浜市東部病院
ロボット手術センター長)

看護師2年目の経験と学びを発表

2月20日、看護教育委員会が主催する2年目看護職員研修「ケーススタディ」発表会が開催されました。

当日は研修を受けた4人の看護職員たちが、患者さんや利用者さんのかかわりについての学びをまとめ、発表を行いました。



発表者たちは緊張しながらも、自らの経験や学びをしっかりと振り返ることができました。

会場には聴講者として先輩ナースや介護職員など42人が参加し、発表者たちの努力を温かく見守りました。

発表会の最後には看護師長からの感動的な総評があり、看護師長から看護師2年目研修の「修了証書」が手渡され、発表者たちの努力が正式に認められる瞬間となりました。

この研修を通じて、看護職員たちはさらなる成長を遂げ、今後の実践に生かしていくことを誓いました。

(済生記者 藤岡拓人)

topics

熊本福祉センター

日頃の感謝を込めて 育てた花をプレゼント

2月18日、日頃お世話になっている地域の方々へ感謝を伝えるため、消防署や中学校等の地域の事業所に当センターで育てた花をプレゼントしました。

ほほえみ生活介護の利用者さんが育てたものです。1月21日に「花を植えるグループ」と「プランターにミニ看板を作るグループ」に分かれて作業に取り組みました。



花を植えるときには

優しく手に取って「きれいな花が咲きますように」と心を込めて、ミニ看板作りでは何の花なのか分かりやすいように、絵や文字を丁寧に描いて仕上げました。

利用者さんは誰かがうれしそうに、笑顔で取り組んでいました。水やりをこまめに行ない、利用者さんの温かく優しい気持ちのおかげできれいな花を咲かせることができました。

(支援員 島崎成美)

老健の仕事を 高校生にアピール

〈北海道〉小樽老健はまなす

2月10日、若者就職マッチング支援事業として小樽市が主催する企業出前説明会が小樽双葉高校で開催されました。対象は1年生80人、参加企業は19社。1回20分の説明時間で生徒4人までを1クールとして、3クール行なわれました。

当施設には3クールとも定員の4人、計12人に施設の紹介や老健に関わっている職種の説明などをしました。うれしいことに定員以上の生徒さんが当施設の話を知りたいと足を運んでくれました。

最後に行なわれた企業懇談会で高校の先生から聞いた話では、ここ数年医療介護業界を目指す生徒が増えてきているとのこと。一方で、卒業後に小樽を離れてしまう生徒が多数という現状も耳にしました。

今回の説明会が2年生でのインターンシップや卒業後の進路選択のきっかけとなればうれしいです。(済生記者 伝法俊和)

〈北海道〉小樽病院 高校生に看護の魅力を紹介

2月10日、小樽双葉高校で1年生を対象とした企業出前説明会が開かれ、当院看護部が初参加しました。

小樽市内19企業が各教室に分



かれ、訪れた生徒にそれぞれの企業の魅力や働きがいなどを説明しました。当院は、看護師の専門性やチーム医療の中での役割など看護の魅力を伝えるとともに、歴史ある済生会の医療・福祉の実績や小樽市のまちづくりへの参画など、地域に根差し



た取り組みを紹介しました。

生徒82人のうち、12人が当院の説明会に参加。熱心に質問しメモをとるなど、とても興味を持って聞いていることが強く伝わってきました。参加した生徒が看護師の仕事に興味を持って進路を選択し、いずれ小樽市で働いてくれることを期待しています。

（看護部次長 中川尚美）

熊本病院

作業療法学会に400人 山口達也氏講演も

1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤啓士郎さんが学会長を務める「第20回熊本作業療法学会」が開催され、作業療法士、一般参加者、学生など約400人が集

まりました。

学会では基調講演、口述発表、ポスター発表など多彩なプログラムを展開。後藤学会長は「作業療法の振り返りと未来に向けたデザインの共有ができたことを大変うれしく思います。社会の変化に柔軟に対応し、より良い未来を築いていきたいと考えています」と述べました。

学会閉会後には、山口達也氏を招き市民公開講座が行なわれました。山口さんはアルコール依存症の経験を交え、自分の未来を変えるための考え方や作業療法の経験について講演。参加者に大きな感銘を与えました。

（済生記者 岩瀬 桃）

〈鳥取〉境港総合病院

膵臓がん早期発見のために

3月6日、当院2階会議室で「済生会健康保健講座」を開催し、地域住民61人の参加がありました。

講演では、健診センター長の藤井容子医師が講師を務め、「膵臓がんを早期に見つけるために」のテーマで、膵臓がんの現状、難治性であること、早期発

見が重要であること、そして当院が行なっている膵臓がん検診について分かりやすく説明しました。

講演後の質疑応答では「どのような状態のときに、手術をせず抗がん剤治療となるのか」「膵臓嚢胞を指摘されているが膵臓がんと関係があるのか」「膵臓がん検診のお値段は」など参加者の皆さんから熱心な質問が多くあり、膵臓がんについての関心の高さがうかがえました。

（済生記者 亀尾美子）





〈大阪〉千里病院

有功会員表彰お祝いの会

2月16日、松山市で開催された済生会総会で、林亨名誉院長が有功会員として総裁の秋篠宮皇嗣殿下から表彰されました。

この栄誉を祝い、喜びを分かち合うため、3月13日に「済生会有功会員表彰お祝いの会」が開催されました。

林名誉院長は「殿下からお祝いの言葉を賜り、緊張するとともに感激した」と話しました。さらに「この栄誉は職員の皆さんを代表して受け取ったと思っている。20年前の千里病院の設立にあたり、職員の皆さんが熱く懸命に取り組んだこと、そして光り輝く素晴らしい病院へ



と育て上げたことが評価されたもの。その努力を心から尊敬し、今回の受賞についても深く感謝している」と感謝の気持ちを述べました。

（済生記者 二階堂潤江）

〈神奈川〉横浜市東部病院

院内デイケアでサルビア利用者と交流

2月13日に院内デイケアを行ない、当院の患者さん5人と重症心身障害児（者）施設サルビアの利用者さん7人の交流がありました。

サルビアでは2月いっぱい写



真展を開催。これまでサルビアで撮られた写真が装飾とともにたくさん壁面に展示されました。当院の患者さんはサルビアの利用者さんとともに展示写真をスタッフと話しながら鑑賞し、バレンタイン前日だったためチョコレート作りも行ないました。皆さんにとって気分転換のひと時となっていたらうれしいです。

（済生記者 荒木愛美）

医療政策・医事研究部会

高い専門性を持って研究に取り組んだ1年

3月13日、福岡市の警固神社事務所ビルで福岡総合病院が事務局を担う医療政策・医事研究部会の全体会議を開催し、各ワ

topics



「キングチーム」が1年間の活動の最終レビューを行いました。2024年度は全国から集結した約60人のメンバーが五つのワーキングチームに分かれ、それぞれが高い専門性を持って研究に取り組みました。模擬適時調査を中心とした施設基準管理に関するもの、収益向上、業

務効率化と今後あらゆる病院が直面する普遍的なテーマが設定され、各メンバーが意義深い1年間を過ごしたと思います。

これらの活動を済生会の各病院にとってさらに意義あるものにすべく、25年度も活動を継続していきます。

(事務局／福岡総合病院

経営企画課 新田 怜)

〈香川〉特養なでしこ香川 お灸をもっと身近に

昨年12月19日、当施設の地域交流スペースで高松市高齢者居場所連携事業として「お灸講座」を開催しました。

高齢者居場所連携事業は地域の高齢者だけでなく子どもたちも交えた世代間交流の場と位置づけられ、当施設でも高松市と協力しながら昨年から開始しました。

今回は日本セルフお灸協会から講師を招き、15人の参加者にお灸の効能や現代の商品について説明してもらった後、皆でお灸を体験しました。手足のツボに台座灸(台座にシールのついたお灸で一人でも簡単に使用できるもの)を使ってみると、参



加者は「ほどよく熱くて気持ちいい」「熱いかと思ったけど大丈夫」と楽しんでいました。

体験することで誤ったイメージが払拭され、お灸が身近なものとなったようです。

(事務所 穴吹浩二)

岡山済生会総合病院 災害時用備蓄食768箱を NPO団体に寄贈

2月27日、地域災害拠点病院としての災害時用備蓄食(職員用)のうち、賞味期限の近い「ライスクッキー」(1箱8個入り)768箱を、NPO法人岡山きずなへ寄贈しました。

2022年3月には災害備蓄用缶詰パン「生命のパン」を



寄贈しており、今回で2回目。施薬救療の理念に基づく生活困窮者支援事業「なでしこプラン」のもと、総務課の職員がお届けしました。

また、SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」持続可能な消費と生産のパターンを確保

する」に基づき、寄贈することとでフードロスの解消にもつながりました。

岡山きずなのスタッフからは「前回に引き続き、このような支援はとても心強く、大変ありがたいです」との感謝の言葉をいただきました。

(済生記者 高畑貴子)

創立10周年 会員数2・6倍へ

済生会超音波研究会

2月22日、〈東京〉中央病院
で創立10周年記念式典およびセ

ミナーを開催し、来場19人・オンライン129人が参加しました。

式典では、〈奈良〉中和病院の今川敦史名誉院長、松原了済生会理事が祝辞を述べ、事務局の筆者が作成したスライドで研究会の10年を振り返りました。

セミナーでは、初代代表世話人の御幸病院・西上和宏院長と、中央病院・金田智放射線科顧問が講演を行いました。

本会の目的は、超音波教育を包括的かつ効率的に行なうこと。医療における超音波検査の役割は極めて大きくなってきており、設立当初134人だった会員数が、令和7年2月末時点で355人と2・6倍に増加しました。

超音波検査業務に関連する方々は、ぜひともホームページの「お知らせ」をご覧ください、会員登録（無料）をお願いします。



（奈良・中和病院
副医療技術部長 高橋秀二）



行き先を自分で選ぶ 日帰りバス旅行

〈神奈川〉金沢若草園

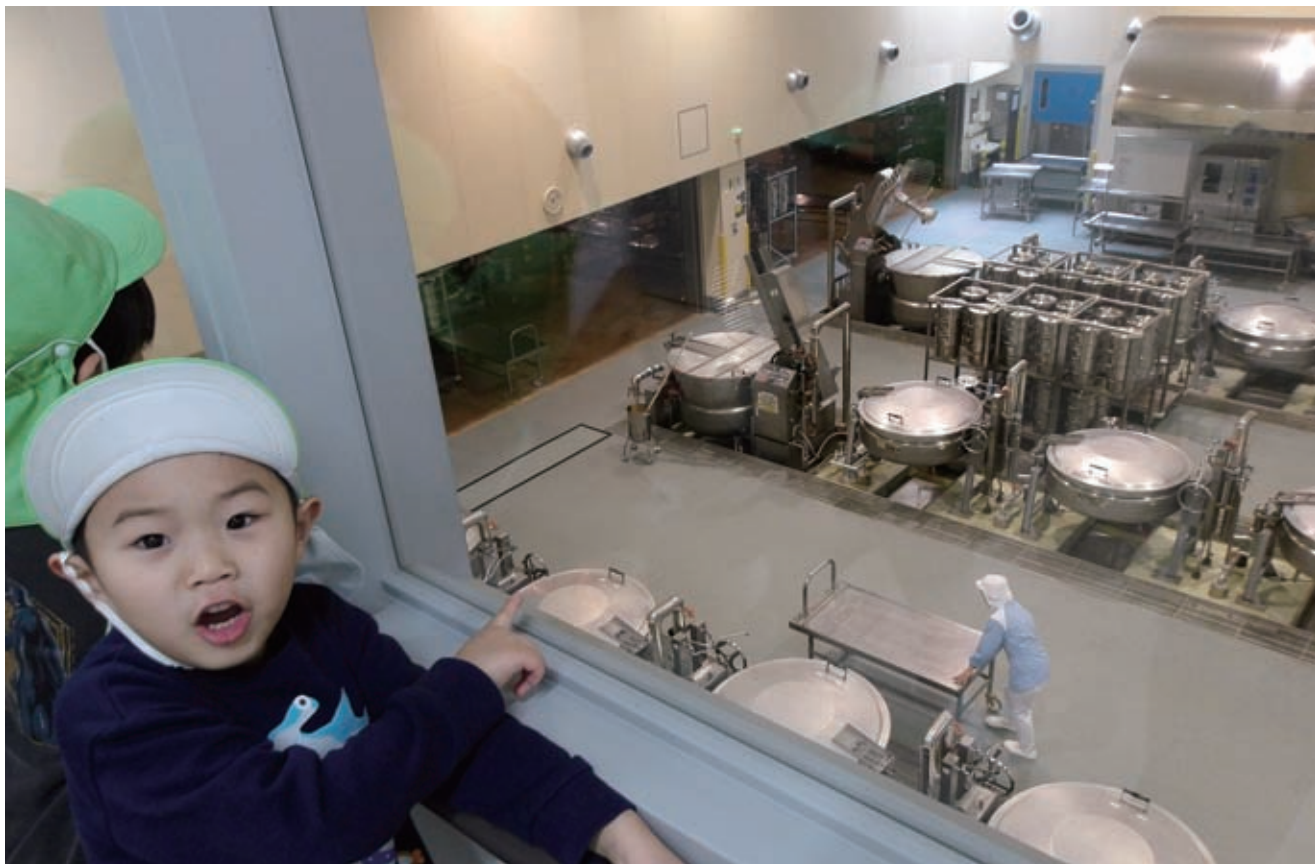
3月9日、利用者さんが2班に分かれて日帰りバス旅行に出かけました。目的地は複数候補の中からアンケートで決定しました。

「東京スカイツリーとマダム・タッソー東京見学の旅」には利用者さん22人が参加。スカイツリーの展望台から東京の景色を一望し、改めてその高さを実感しました。マダム・タッソー東



京ではオバマ元大統領の執務室で写真撮影。リアルな展示物に驚きながらツアーを楽しんでいました。

「マザー牧場とはちみつ工房見学の旅」を選んだ利用者さん23人は、15頭の羊によるシープシ



ヨーを観賞し、展望台からの景色を楽しみました。昼飯後はちみつ工房へ。巣箱から巣を取り出し遠心分離機を使用して採蜜する様子などを見学し、「楽しかった」「はちみつがおいしかった」と話していました。

（済生記者 日高 純）

〈山形〉はやぶさ保育園 鍋の大きさにびっくり！

2月25日、5歳児19人が山形市学校給食センターへ見学に行きました。

窓越しに給食を作っている様子や、DVDを見て、給食センターについていろいろなこと

を学んだ子どもたち。調理のシーンを見て、目の前にある大きな鍋に驚く様子もありました。「今日の給食は何だろう」「何を作っているのだろう」と疑問に思ったことを言葉にして発言する姿も見られました。

調理の中で実際に使用している、おたまやへらなどの調理器具を持たせてもらうと、あまりの重たさにびっくりする子も！見たたり聞いたり、体験しながら知ることができ、初めての見学がとても貴重な時間となりました。

（済生記者 齋藤里奈）

〈栃木〉宇都宮病院 顔の見える、連携目指し 整形外科症例検討会

2月13日に整形外科地域連携症例検討会を開催しました。本会は整形外科疾患における病診連携を目的としており、近隣の病院や診療所の医師、理学療法士など多職種53人が参加しました。

今回は参加者に治療経過や最終結果が気になる症例を事前に聞き、各症例について当院整形外科の岩部昌平主任診療科長がスライドで説明しました。



続けて岩部主任診療科長が座長を務め、顔の見える、連携を目的に、整形外科の各医師から自己紹介と症例発表を行いました。

参加者からは「希少な症例の発表を聞けて大変勉強になった」「オペされた先生方の意見が聞けると患者さんに対する意欲も変わる。またぜひ参加したい」など肯定的な意見が多数寄せられました。

（地域連携課 秋山綾香）

topics

中高生を対象とした がん教育の講演

〈大阪〉野江病院

当院は大阪府がん診療拠点病院として、地域の学校に講師を派遣し、がんに関する正しい知識の普及啓発に努めています。

2月5日、がん相談支援センターの渡邊美貴副看護師長（緩和ケア認定看護師）が大阪市立茨田北中学校2年生



と先生約170人を対象に、2月17日、消化器外科の太田秀一副院長が大阪府立成城高等学校の定時制に通う生徒と先生約50人を対象に、それぞれがん教育の講演を行いました。

講演内容は、がんについての正しい知識やがん検診の大切さ、緩和ケア、治療法や予防の心得などです。時折クイズをはさみながら進められ、



参加した皆さんは真剣に耳を傾けていました。

（済生記者 坂本千晶）

滋賀県済生会訪問看護 ステーションサテライト青山 日々のケアを振り返り 看護の質向上を目指す

専門職としての質の向上を目指す、2月7日に当ステーション内で事例発表会を行いました。

発表会は今年で3年目。より多くの参加者を募るためオンライン開催とし、46人が参加しました。看護小規模多機能型居宅介護事業所の特徴を生かし、医療的処置のある利用者さんの老

健から在宅へスムーズに移行ができた事例など、3演題の発表がありました。

発表後は質問やディスカッション、近隣大学看護学部にも所属する在宅看護専門看護師からの講評を受けました。年々発表内容が充実し、自分たちの看護の振り返りにつながっていると感じます。

（看護師 齋藤京子）



〈福岡〉大牟田病院

地域福祉大会で表彰

2月2日に「第16回大牟田市

地域福祉大会」地域ささえあい絆セミナー」が大牟田文化会館で開催され、端原信裕事務部長が参加しました。

第一部では、地域福祉の向上に貢献した個人・団体、共同募金高額寄付者、共同募金運動の功労者などへの感謝状贈呈式が執り行なわれ、当院は赤い羽根



募金活動と無料低額診療事業に対して感謝状をいただきました。

大牟田市社会福祉協議会・大塚久会長からの感謝の言葉に、「なでしこプラン」を継続していくことの大切さを強く感じるとともに、より広く発信し、活動を推進していきたいと思いました。困った人に手をさしの



永年勤続、職員表彰を祝福

〈福岡〉二日市病院

2月28日、ロイヤルチェスター福岡で令和6年度永年勤続表彰式・職員表彰式をむさし苑グループと合同で開催しました。約100人の職員が参加し、おいしい料理とお酒を

楽しみ表彰者を祝福しました。永年勤続表彰の対象者は、本部表彰の30年勤続1人、20年勤続12人、10年勤続16人、支部表彰の功労会員2人、15年勤続24人。大森徹支部長から代表者へ表彰状と記念品が贈られました。職員表彰の受賞者は8人で、壁村哲平院長から表彰状と副賞が贈られ、会場は温かな拍手に包まれました。

企画を担当した職員は「表彰された職員の笑顔を見ることができてうれしかった」とコメントしました。

筆者は今回初めて表彰式に参加。よりよい病院づくりに貢献するためには何ができるのだろうかと改めて考える機会となり

べる」という済生会の理念のもと、今後も地域貢献へ取り組み

ます。

（地域医療連携室長 浦 正太）

ました。

（経営戦略課 都甲七桜）

〈山形〉小白川ケアセンター

ホットケーキを作って 優雅なティータイム

2月19・21日、レクリエーション活動の一環として、合計37人の利用者さんとお菓子作りを行ないました。

利用者さんがお菓子作りを通して、調理や交流をしながら楽しめるように企画。今回は焼いたホットケーキの上に、チョコ



レートシロップやケーキシロップをかけて食べてもらいました。利用者さんからは「楽しいね」「今日来て良かった」といった声や、「昔、子どものときに妹に小麦粉を溶いて囲炉裏の脇で焼いて食べさせたことある。涙が出てくる」と昔を懐かしむ声。午後のひととき、クラシック曲を聴きレモンティーやミルクティーを飲みながら、久しぶりに優雅な気分を過ごしました。

（済生記者 岩城多香代）



新潟病院

救急車の更新を目指し クラウドファンディングに挑戦!

当院は救急車の更新を目指し、クラウドファンディングに挑戦します。

当院の救急車は現在、D M A Tカーとして活躍。新型コロナウイルスが確認されたダイヤモンドプリンス号への派遣や、能登半島地震被災地での支援活動など、D M A T隊員と共に全国を巡ってきました。走行距離は26万キ

〈愛媛〉西条病院 多職種による健康フェア 幅広い世代が来場

1月19日、イオンモール新居浜で健康フェアを開催しました。今回は保健師や管理栄養士など多職種17人が参加。血圧測定、血管年齢測定、健康相談、インボディ測定、ストレスチェック、栄養相談、お薬相談、口腔ケア相談、リハビリスタッフによる認知症予防(コグニサイズ)を実施しました。

筆者は血圧測定を担当。多くの方が血圧が高いことを気にしていたので、生活の中で血圧上

口に達し、老朽化もあり限界に近づいています。

さらに当院は2023年5月に新潟市の新救急拠点病院に選出。救急患者の受け入れに注力しており、円滑な入院調整に向けた救急車の活用も検討しています。

こうした現状と今後の利用増を見込み、クラウドファンへの挑戦が決定。実施期間は4月21日〜7月18日の予定です。成功に向けて一生懸命取り組んでいきます。(経営企画室 古川陽之)

昇を抑えることを意識するようアドバイスしました。

20〜70代の幅広い世代の56人が来場し、アンケートにもたく



小学生が高齢者疑似体験

〈北海道〉小樽老健はまなす

さんの方が回答してくれました。アンケートによるとインボディ測定が好評で、「インボディの測定値が役に立った」「初めて測定して大変ありがたかった」などの声をいただきました。

(社会福祉課 森田真子)

務めました。

約1時間の授業では皆さんに高齢者疑似体験セットを装着してもらい、「右半身が麻痺の状態」という設定で、平地での歩行や階段の昇降、視野・色覚や聴力の感覚、そして麻痺側の手で食べる、食ばさせてもらう、飲み込むなどの体験をしてもらいました。

3月12日、当施設の隣にある塩谷小学校で高齢者疑似体験授業を開催しました。4回目の開催となる今回は4年生3人、5年生11人が対象。リハビリテーション課の塩野谷千恵子課長を中心に、6人のスタッフが講師を



体験した生徒からは「耳に水が入った状態で声が聞こえる」「腰が曲がってしまう」などの声が聞かれました。

今回は新聞社・テレビ局の取材もあり、テレビ局の23歳の記

者も「腕が曲がらないので食べるのが大変」と驚きを隠せない様子でした。

(済生記者 伝法俊和)

〈福岡〉二日市病院

停電時の運営方法を検討

2月27日に災害対応訓練を実施し、約40人の職員が参加しました。

災害時に地域医療を支える重要な役割を担う災害拠点病院として、当院では災害時対応能力向上を目指して年1回の災害訓練を計画しています。

今回は台風による停電を想定し、平日の診療時間中に訓練を



実施。実際の患者情報や検査・手術情報を収集し、停電時の運営方針や問題点への対応について検討しました。

過去には、停電による診療の混乱も経験しており、停電対策についてはある程度検討を重ねてきました。今回の訓練では、自家発電機稼働時に使用可能な設備や、制限される診療などを再確認。また、多職種が参加し病院全体で検討することで、これまで気づかなかった課題も明らかになり、今後の対策に生かせる有意義な訓練となりました。

(済生記者 久富大史)

〈滋賀〉栗東地域包括支援センター

地域の皆が気軽に集いおしゃべりができる場を

2月28日、地域支え合い推進員の方とともに岡のサロンへ行ってきました。コロナ禍で近所同士の交流が途絶え、心細さを感じてきた住民の「皆が集まっておしゃべりがしたい!」との思いをくみ取り、昨年9月に民生委員・児童委員3人で立ち上げた新しいサロンです。

サロンは月1回のペースで開



3人一組で「2文字の食べられるもの」をお題に文字作り合戦

かれ、そのときしたいことを皆でするスタイル。今回は12人が参加し「春がきた」「ひな祭り」などの懐かしい歌と一緒に歌った後、地域支え合い推進員が用意した「間違い探し」と「あいいうえおカード」を使って楽しみました。

皆が気軽に集い「こっちおいで。ここ座り」「元氣やった? 久しぶりやな」などと声を掛け合う様子も。ゲームをしているときもたわいもない会話が素敵な笑顔をたくさん見ることができました。

(保健師 諸木加寿子)

topics

〈茨城〉 神栖済生会病院

今後の地域医療につながる

神栖済生会病院地域医療連携の会を、2月18日にアトンプレスホテルで開催しました。近隣10市の医療機関をはじめ神栖市や消防本部などの関係者を招き、当院から金沢義一院長、西山敬浩副院長や各診療科部長が出席して、総勢115人の盛会となりました。

初開催の今回、当院と各診療科の紹介に続き、立食形式での懇親会で参加者の交流が行なわ

れました。和やかな雰囲気の中、関係機関の方々との「顔の見える関係づくり」により親交を深めることができました。

参加者からは「初開催とは思えないほど職員の対応が良かった」とお褒めの声。職員からも「短期間での準備で大変な面はあったが、今後の医療連携に確実につながると実感できた」との感想が聞かれました。

（済生記者 江口裕紀）

神奈川県病院

病院事務の世界を体験2週間のインターン

2月17日から28日までの2週間、大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校の学生2人のインターンシップを行ないました。事務部のインターンはコロナ禍以降の取り組みとなりました。事務部各所を巡り、医事、総務から地域交流にわたる多岐の業務を体験。病院がどのように運営されているのかを学ぶ機会となりました。

学生からは「最初は緊張しましたが、職員の皆さんが優しく接してくれたおかげで、安心して学べた」「PCの操作に慣れ



ていなかったもので、勉強しなければと感じた」「病院の事務といっても、部署ごとに役割が違い、多くの業務があることを知った」といった感想が寄せられました。

今回のインターンシップが医療を支える仕事に興味を持つきっかけとなればうれしいです。

（済生記者 小山友輝）

〈奈良〉 桜井市地域包括支援センターきぼう

地元スーパーで栄養・食生活相談会

2月20日、イオン桜井店で「野菜足りてますか？ 栄養・食生活相談会」を開催。老健シルバークケアまほろばの管理栄養士、中和病院のMSW・看護師と

協働し、相談ブースを設けるとともに参加者の悩みに応じた栄養補助食品の説明や試供品の提供などを行いました。

メインコーナーは市と包括連携協定を結んでいる明治安田による「ベジチェック」。センサーに手をかざすだけで野菜摂取量が測定できるとあって終始列がで、60人あまりが計測しました。目安となる1日350グラムを摂取できている人は少なく「野菜は加熱する方が量を多く取れますよ」などのアドバイスに熱心に耳を傾けていました。

MSW・看護師による医療相談も好評。病院の無料低額診療や脳卒中相談窓口などを普及啓発するいい機会となりました。

（管理者 土屋千南美）



えっ...?
買い物好きの
あの子まで.....

最近、

将来に備えて
貯金し始めたの

もしかして...
ノープランなの、
あたしだけ!?

済生会の職員なら

誰でも
申込OK!

人生に必要な「お金」を
FPが教えます!

済生会グループ保険

ライフプランニング 体験会

WHAT'S LIFE PLANNING?

あなたの人生にこれから必要となるお金と、そのお金をどのように準備すればいいかを専門家(FP)のアドバイスをもとにまとめ上げるものです。あなたの夢を実現するためのプランを一緒に作りましょう!

お申込みは
こちらから
→



topics

医療のおしごとに挑戦

〈愛媛〉西条病院

3月2日、西条市SDGs推進協議会主催のアクアフエスタ「キッズおしごとチャレンジ」コーナーに「よいとさ保健室」を出展しました。当日は来場した子どもたちに医療にまつわるさまざまな体験をしてもらいま



した。

AED体験では消防士と看護師が現場さながらの実務体験を演出。沐浴体験では人形を赤ちゃんに見立てて、緊張しながらも丁寧に入浴させ、その後の着替えも順序よく行なっていました。手洗い指導では一人ひとりに水で手洗いをしてもらい、手洗いチェッカーを用いて指導しました。

約120人の保護者からアンケートの回答がありました。若年層が多かったから健康を意識している人は少ないように

した。それでも子どもたちの笑顔が見られ、どの保護者も満足そうでした。

（検診センター 横井小百合）

香川県済生会病院

DMATの活動を知り 災害時対応を学ぶ

2月20日に中間管理職研修を開催し、30人が参加しました。今回のテーマは「今、地震災害が発生したら行動できますか？災害発生時の初期対応」。香川大学医学部附属病院所属で日本DMAT隊員の熊野耕看護師が講義を行ないました。

研修の目的は、現行の当院BCPの実効性について問題を洗い出し、準備段階でのアドバイスを得ること。さらに、当院規模の病院の役割、各部署の役割を再確認できました。

DMAT活動を映像で紹介し、近隣の介護福祉施設や病院の位置を地図上でチェックすることで災害発生時の被害予想を具体化しました。

参加者からは「DMAT隊員の活動の様子を見ることが、災害時に求められることが理解できた。昼夜や休日によって可



能な対応が変わることを改めて認識できた」といった感想が寄せられました。

（済生記者 長尾美甫）

新潟でしこワークス

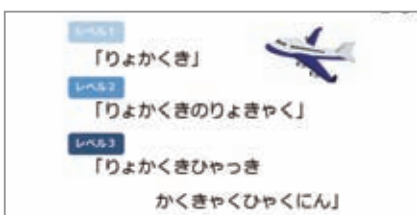
自分たちの仕事に形に

3月13日、当施設が普段から受託業務でお世話になっているカフェ＆チョコレート「ミチコ」の新店舗のプレオープンに招待され、利用者さん、職員の5人で訪問しました。

私たちの仕事を「いつも助かってます」と喜んでいただき、



さらには「あのラッピングは難しいよね」とねぎらいの言葉も。利用者さんも「いつも選別しているカカオ豆がチョコソフトクリームになったんだ」と、自分たちが関わる商品が具体的な形



この日は46人が参加。実際に飲んで、喉の動きを体感しながら、

2月20日、守山市内の勝部老人クラブの定例会で出前講座を実施しました。摂食嚥下障害看護認定看護師の松永哲人主任が「肺炎にならないための飲み方・食べ方」について講義を行ないました。

仲間同士で楽しく学ぶ 誤嚥予防の出前講座

〈滋賀〉 守山市民病院

（済生記者 小野塚真理子）

これからの、丁寧な仕事を心掛け、少しずつ受託量も仕事の幅も増やしていきたいと思っています。利用者の皆さんのやりがいにつながる仕事を続け、地域とつながっていくことを目指します。



嚥下や誤嚥の仕組みを説明しました。また、家庭でも続けやすい誤嚥予防のトレーニングとして、舌の運動、早口言葉、ストローを使ったトレーニングなどを紹介しました。

「皆とやることでやる気になった」という方もいて、仲間同士で「難しい」と笑い合っているのが、地域で行なう出前講座ならではの良さだと感じました。これからも積極的に講座を行なっていきたいと思っています。

（済生記者 中嶋元香）



黒豆マフィンをお届け

〈岡山〉 吉備病院

バレンタインデーの2月14日、職員有志が病院の裏庭で育てた黒豆を使用した「黒豆マフィン」を入院患者さん、透析患者さん、そして職員の皆さんにお届けしました。

この取り組みは、入院生活を送る患者さんにリハビリの一環として黒枝豆の収穫を手伝っていただき、自然と触れ合う喜びを感じてもらいたいという思いから始まりました。

昨年10月に入院患者さん8人と職員有志で収穫した黒豆を使い、委託業者の日清医療食品の協力のもと約200個のマフィンを製作。ふっくらと炊き上げた黒豆とマフィンの甘さが調和し、とても優しい味に仕上が



りました。

院長からのサプライズプレゼントとして心を込めてお届けし、皆さんから「とても美味しかった」「素敵なプレゼントをありがとう」との声をいただきました。

（済生記者 難波美紀）

〈愛媛〉今治老健希望の園

体組成計で健康づくりのきっかけを

3月1日、当園主催の「健康相談会」を開催し、利用者さんのご家族や地域の方々9人が来園しました。

本年度当園では新たに体組成計を導入し、リハビリや生活指導に役立てています。内臓脂肪



や筋肉量、左右のバランスなどが分かるため、利用者さんからは「目標を立てて頑張っている」「リハビリのモチベーションが上がった」と好評を得ています。今回の相談会でも参加者に体組成計を体験してもらいました。そのほかにも血圧測定や問診、測定をした後にリハビリ職

topics

員、看護師が結果の説明後、普段の生活で困っていることなどを聞き、アドバイスやお話をしました。

参加者からは「いろいろ相談

に乗ってもらえてよかった」「体の状態が分かった。また測りに来たい」などの感想がありました。

（済生記者 濱本佳代）

やさしい日本語で外国人にも分かりやすく

〈大分〉日田病院

2月21日、当院会議室で「やさしい日本語教室」を開催しました。「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人や障害者、高齢者でも分かりやすい日本語のことです。3回目の開催となる今回は初の試みとして、日田市内の介護施設で働く施設職員・ケアマネジャ

ーに声をかけ、院外12人・院内11人、計23人が参加しました。

外部から招いた講師からは、文章を短く区切ること、端的な文章にすることが必要であるとの振り返りがありました。「実際に外国人労働者と共に施設で働いているので、やさしい日本語を知ることができてよかった」と話す参加者も。今後もうやさしい日本語の周知、活用を行なっていく予定です。

（医療相談員 成重春奈）

京都済生会病院

アルコール専門医療研修 依存症への理解深まる

2月6日、院内教育委員会と福祉相談室の共催で「アルコール専門医療と一般医療の連携」トリートメントギャップを埋める」をテーマに研修を実施し



ました。

当日は医師14人を含む職員44人が参加。当院と連携の深い依存症専門機関である安東医院の安東毅院長が講師を務め、治療中の患者と未治療の患者の間にある「トリートメントギャップ」に焦点を当て、アルコール依存症の病態や関連する社会的課題、支援のあり方について幅広く解説しました。

質疑応答では「治療支援アプリの活用」「離脱症状への対応」「専門医療機関への適切なつながり」など実践的な質問があり、受講後のアンケートでは「依存症について理解が深まった」「患者対応に悩むこともあったので参考になった」といった回答が

ありました。

（福祉相談室係長 田島佳織）

〈東京〉中央病院

将来の妊娠を考えて 正しい知識と健康管理を

3月15日、港区立産業振興センター大文化祭「みな・さんfes・2025」に当院も参加しました。同センターで活動する会員企業・クリエイターと近隣地域の企業・団体の活動発表や交流の場で、45社が出席。来場者は約400人にのぼりました。地域企業・団体・住民との交流や、事業者間の新たなビジネスチャンスの創出を目指して企画されています。

当院は産婦人科がヘルスケア領域で注力している「プレコンセプションケア」をテーマに出席。同科の柏原美季医師が大ホールで講演し、ブースではプレコンセプションケア外来の周知を行ないました。

「プレコンセプションケア→妊娠・出産→産後ケア」という女性のトータルケアを産婦人科で展開していきたいと考えています。

（事務次長代理 町田洋治）

topics



〈大阪〉 泉尾特養大正園 介護生産性向上モデル認定

当園では、大阪府主催の生産性向上伴走研修に5人が参加し、全ての研修を経て3月11日に「大阪府介護生産性向上モデル事業所」の認定を受けました。この認定を受けられるのは大阪府内でわずか20施設のみ。研修では、介護ロボット・ICT導入における課題解決の重要性を学び、特に「準備の大切さや小さなPDCAサイクルを止めないことの重要性」を痛感しました。

学びを生かして全室（108床）の見守り支援機器やインカムを導入し、利用者さんの生活



の質向上と職員の負担軽減を実感しています。最後に他施設からの施設見学も随時受け付けていますので、お気軽にご連絡ください。

（済生記者 徳原健治）

〈滋賀〉 特養淡海荘 利用者の安心のために 統一した認知症ケアを

認知症ケア向上のための研修を2月10日、12日、18日の3日間、職員に向けて開催しました。54人の職員が参加し、認知症ケア向上委員会で作成した「認知症ケアマニュアル」を基に、講義やグループワークで学びを深めました。

グループワークでの事例検討では、マニュアルに沿ったケア

を基本に個々のBPSDを的確に把握し、根拠に基づくケアの実践を多職種で共有する機会となりました。

研修は全職員のうち三分の二が受講。参加者からは「これからは施設として統一した認知症ケアをしていきたい」という声が聞かれました。

（介護福祉士 南井亮祐）



〈新潟〉 特養康和園 スライドドアで安心・安全

当園の全ての居室の出入り口にスライドドアを設置する改修工事を行ない、3月25日に完了



しました。

本工事は、入居者さんのプライバシー保護と感染症拡大防止対策として実施。各居室にスライドドアを設置することで、個々のプライバシーを確保できるだけでなく、感染症対策として部屋の分離が可能になりました。皆さんが当園で安心して生活できる環境を整えました。また、スライドドアは広く開閉するので、車椅子での居室への出入りもスムーズになりました。

当園では、今後も入居者さんの生活の質を向上させるため、さまざまな改善策を模索し続け、入居者の皆さんの安心・安全を第一に考えたサービスの提供を目指します。

（済生記者 山田裕樹）



長野保育園

てっぺんたい！

年長児が2人1組となり、3歳未満児クラスで一日一緒に過ごすイベントが1月20日から始まりました。

「今日の手伝いたいのは誰？」と朝から子どもたちが確認し合い、



エプロンを身に着けて小さいクラスへと向かいます。そして一緒に遊び、身の回りのお手伝いをします。年長児は戸惑いながらも優しい気持ちで関わり、「トントンしたら寝てくれた」「つないだ手が小さかった」など思いやりのあるつぶやきが聞かれました。

小さい子は年上のお兄さん・

お姉さんを見て、真似をしながらおもちゃの使い方や遊び方、着替えや手洗いなどの生活習慣まで自然と学ぶことができます。

このような異年齢の関わりを大切にしながら、社会性の発達や好奇心へとつなげていきたいと思っています。

（保育士 大高真希）

小児科病棟に壁一面のホスピタルアートが完成

滋賀県病院

約半年の制作期間を経て、2月20日に小児科病棟のプレイルームと処置室のホスピタルアートが完成しました。

院内保育所のホスピタルアートの続き、今回も京都芸術大学の学生たちが制作。子どもたちの診察や処置の緊張感を和らげ、



安心して治療を受けられる空間をアートによって演出する試みです。

プレイルームには、シルエットや図形を使った「パズルアート」が描かれ、子どもたちの想像力を刺激します。処置室には、滋賀県の名物をモチーフにした独自のキャラクターが壁一面に配置。隠れたキャラクターを探す楽しみによって、治療の緊張感を和らげる効果が期待されています。

小児科の伊藤英介医師は「壁のイラストが子どもたちとの会話のきっかけとなり、より良い関係を築くことができそうです」と話しました。

（経営企画課 鵜飼健成）

〈富山〉 幼保連携型認定

こども園なし保育園

子どもたちにバスケの楽しさを知ってほしい

三井住友信託銀行からミニバスケットゴール1基とAKATSUKI JAPANミニボール5個が寄贈され、2月21日、当園遊戯室での贈呈式に年長児23人が参加しました。バスケットは他のスポーツと比べ、未就学児が体験できる機会がありません。少しでも多くの子どもたちにバスケットに触れて



その楽しさを知り、興味を持ってもらおうと、2023年から日本バスケットボール協会を協賛している三井住友信託銀行が、ミニゴールとボールを幼稚園・保育園に寄贈するプロジェクトを行なっています。

贈呈式の後には、早速いただいたゴールとボールを使用し、プロバスケットチーム・富山グラウジーズのアカデミーコーチによるバスケット教室を実施。子どもたちは運動の楽しさやチームワークの大切さを学びました。(主幹保育教諭 堀田理恵)

〈東京〉 中央病院

特別支援学校から初めての実習生受け入れ

2月18日から4日間、都立港特別支援学校の生徒1人が当院で現場実習を行いました。最近の学校教育は社会現場での実



習を大切にしており、当院に実習の依頼がありました。当院としては社会地域貢献協力のチャンスととらえて取り組みました。初めてということを受け入れ先は人事課に決定。作業の内容は、会議室の清掃と外来病棟の椅子の清掃です。実習生は社会組織に入ることも初めて。学校での教育の成果がとてよく発揮され、礼儀正しく、一生懸命で社会人としての素養をよく身につけています。また、昼食は職員食堂を利用し、大変美味しいと喜んでいました。(人事課 磯崎恵午)

〈群馬〉 前橋病院

DMATカー納車式でクラファンが完結!

2月26日、クラウドファンディングの寄付金で購入した新型の救急搬送車(DMATカー)の納車式を行ないました。当日



は群馬県・前橋市の関係者や地元自治会長を招き、約100人が集まる中、新型DMATカーの除幕とテープカットを行ないました。

新車両は最新装備が搭載され、DMAT隊長は「今後は長距離でも安全に被災地で患者さんを搬送できる」とコメント。DMAT隊によるデモ走行も行なわれ、その機能性と使いやすさを確認しました。

メディアも多数来院し、大盛況の中で式が行なわれ、スタッ



フ一同、大変うれしく思います。これからも地域に貢献する医療、社会福祉事業に力を入れていきます。

（済生記者 川上佳代）

〈神奈川〉横浜市東部病院

「私たちの書道展」開催

1月21日～2月21日、障害者

スポーツ文化センターラポール上大岡と当院の共催で「私たちの書道展」を3階多目的ホール前ギャラリーで行ないました。

ラポール上大岡との共催展示は今年で3年目。装飾は今回もいけばな草月流の有志「F.M.U Flower Meet You」の皆さんに、寄り添う花」の皆さんに、展示されていたお正月作品をすてきにアレンジしてもらいました。

展示されているのは障害のある方の書の作品で、詩は書を指導した居原田礼子さんがそれぞれの方をイメージして作ったもの。前期と後期で作品を入れ替え、計10点を展示しました。

詩の内容と書かれた文字そのものから伝わるあたたかさが心に広がります。近くを通る方々も足を止め、じっくりと作品を鑑賞していました。

（済生記者 荒木愛美）

〈北海道〉小樽病院

セミナーで認知症解説 当日飛び入り参加も

2月23日、済生会小樽病院地域共生健康セミナー第2弾「最近の認知症の診断や治療につい

て」を、ウイングベイ小樽5番街1階（済生会ビレッジ）の済生会ウエルネスリハデイサービス「ライヴリー」で開催しました。講師は当院脳神経内科部長の林貴士医師が務めました。

林医師は認知症の発症原因や症状、最近の治療法まで詳しく解説。難しいテーマで、その場では質問する参加者がいませんでしたが、講演会終了後に林医師にこっそり質問する姿が見られました。

参加者は21人。大型ショッピングセンター内での開催ということもあり、うち3人は会場前の案内を見て当日飛び入りで参加してくれました。3月30日には緩和ケアをテーマに開催します。（広報室長 松尾寛志）





済生会フェア3年連続開催4000人超

京都済生会病院

一昨年、昨年に続き「けんこうとぼうさい」をテーマに3月8日、済生会フェアを開催しました。今回も企業や地域の団体との連携型イベントとして企画し、昨年を超える4000人以上の市民が来場しました。

市民健康講座では、当院医師3人がそれぞれ「働き者の腎臓」に感謝」「こどもの急な体調不良」「外科手術の変遷」をテーマに講演しました。

看護部によるACP啓発の劇やDr・Kのストリートピアノには立ち見が出るほどの大盛況で、社会福祉協議会とのフードパントリー、大人気の緊急



車両との記念撮影、子育て支援団体のマルシェ、その他さまざまな企業の出展が目白押し。内視鏡・腹腔鏡体験、DMATや薬剤部などの各種体験、今回初出展のキッチンカーなど、合計29ブースを幅広い年齢の方々が楽しみました。

（済生記者 白須優也）

〈奈良〉中和病院

仕事と家庭の両立を推進する取り組みで表彰

当院は「社員・シャイン職づくり推進企業」の「仕事と家庭の両立推進部門」で表彰を受け、2月25日、奈良県庁で山下真・奈良県知事から表彰状を授与されました。

子育てや家族の介護を行なう職員向けに独自の短時間勤務制度を導入していること、ワークライフバランス委員会を開設し職場環境の改善に向けた取り組みを続けていること、そして職員全員が仕事と家庭の両立を達成するための制度を理解し、利用できるようにしていることが



評価されたものです。

福本誠人事部長は「平成22年に『多様な働き方実現モデル病院第1号』に選定されてから15年間の取り組みが評価されている」とコメント。この受賞により、当院が仕事と生活の調和を図る職場環境を提供しているという評価が高まり、採用面でも大きな影響を与えることが期待されます。

（済生記者 米井 悠）

〈大阪〉中津看護専門学校 38人が新たな門出

3月5日、70期生38人が卒業式を迎えました。多くの来賓の方々が出席し、保護者に温かく見守られながらの卒業式となり

topics



ました。優良表彰として、大阪府知事賞、大阪府看護協会会長賞、学校長賞を3人が受賞しました。戸田常紀学校長は式辞の中で「看護師として、人として成長していただく」と期待を寄せた言葉を述べました。来賓の大阪府済生会・讃岐富男常務理事からは力強い激励の祝辞を、済生会の炭谷茂理事からは心温まるねぎらいと応援の言葉をビデオメッセージでいただきました。

最後に卒業生代表が答辞を述べ、38人は目を潤ませながらも



済生会の理念を広く知っていただくために

〈富山〉高岡病院

度全般について講演する予定でしたが、生活保護、無料低額診

筆者は公益社団法人コスモス成年後見サポートセンターの依頼を受け、2月25日に富山県民会館で講演を行いました。当初は社会保障制

笑顔で退場し、式は終了。今後は人とのつながりを大切に、自分が目指す看護の道を一歩ずつ進んでいくことを教職員一同、心から願っています。

（専任教員 森谷幸子）

問に、高山先生が〇×形式で分かりやすく解説しています。

足は「第2の心臓」とも呼ばれ、健康維持に欠かせない大切な部位です。しかし、初期症状に気づきにく



「足の指を広げるストレッチで姿勢は良くなる?」といった疑問に、高山先生が〇×形式で分かりやすく解説しています。

足は「第2の心臓」とも呼ばれ、健康維持に欠かせない大切な部位です。しかし、初期症状に気づきにく

〇×形式でフットケア

〈埼玉〉川口総合病院

療事業、そして身寄りなし問題に焦点を当て、済生会の使命やソーシャルインクルージョン活動について解説しました。

参加した行政書士の方々からは「近くに済生会があればいいのに」「病院診療以外の『なで

く、診断や治療が遅れることも少なくありません。

この動画が、日頃から自身の足をケアするきっかけになれば幸いです。今後も、地域の皆さんの健康維持や疾患予防に役立つ情報を発信してまいります。

ぜひ動画もご覧ください!

（済生記者 原 衣里奈）



しこプラン』での活躍を知ることができた」といった感想があり、済生会の理念を深く理解していただけたことがとてもうれしく感じられました。

（医療社会事業課 MSW 若山優子）



滋賀県病院 日本脳ドック学会認定医・ 認定指導士を取得

2月1日、脳神経外科の岡英輝医師と横矢重臣医師、画像診断科の鰐部重砂子診療放射線技師の3人が「日本脳ドック学会認定医・認定指導士」に認定されました。

この資格は、脳疾患の早期発見と予防を目的に、脳ドックに関する専門知識と技能を有する

医師・医療従事者を認定するものです。当院は日本脳ドック学会の認定施設として、専門的な知識と充実した設備を備え、質の高い脳ドックを提供しています。

岡医師は「脳ドックを受けることで、まだ症状が出ていない脳の異常やリスクを早期に発見できます。予防医療の重要性を多くの方に知っていただきたいと思います」と述べ、脳疾患の予防には適切な検査を定期的に受けることが大切だと強調しました。

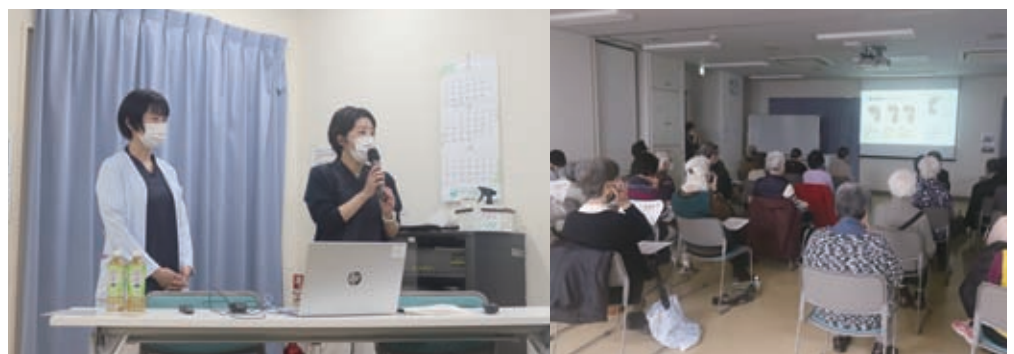
今後も予防医療のさらなる充実を目指し、地域の健康維持に尽力してまいります。

（経営企画課 鵜飼健成）

〈神奈川〉横浜市南部病院 これって認知症ですか？

2月14日、日野南地域ケアラザで糖尿病看護認定看護師の菊地友紀入退院支援センター師長と認知症看護認定看護師の大畑愛さんが「生活習慣病と認知症」をテーマに講演し、地域住民34人が参加しました。

講演の中で菊地師長は生活習慣を変え、それを継続する難し



さを挙げました。また、生活習慣病が認知症に大きく関わることで、できることから無理なくやっていくことが大事だと伝えました。

大畑さんは年齢相応のもの忘れと認知症の違いについて説

明。参加者からの「しまった場所を忘れるのは認知症の症状ですか？」という質問に、「しまったこと自体を覚えているのであれば、年齢相応のもの忘れです」と回答するなど、自身の経験に交えた質問をする方が多く見られました。

（済生記者 南川茉悠）

〈三重〉松阪総合病院 再入院を防ぐ！ 心不全看護外来立ち上げ

当院では1月6日に心不全看護外来を立ち上げました。心不全患者数は2035年



には130万人となり、心不全パンデミック時代が到来する



といわれています。当院でも年間200例程度の心不全での入院があり、再入院を繰り返す患者さんも少なくありません。

再入院は非医学的な誘因が多くを占め、生活習慣の改善とともに、セルフケアによる増悪予防が鍵となります。

そこで、患者教育の継続によるセルフケアの維持・向上を目指すし、心不全看護外来を開設。月1回を基本とし、30分程度の面談を行います。

退院後は疾患管理が不十分になる場合も。まずは心不全を持ちながらの療養生活をねぎらうことから始め、継続できていることは賞賛し、改善点がある場合は患者さんと一緒に対応方法を考えています。

（看護部主任 土面 直）

岡山済生会外来センター 病院

四重奏で癒やしの時間

1月25日、当院で院内コンサートを開催しました。内科の角南良太医長（バイオリン）、心療科・神経科の北村直也診療部長（ファゴット）、検査科の池田智子さん（フルート）、外部

ゲストの松本さん（クラリネット）の4人による素敵な演奏を聴き、心温まる癒やしの時間を過ごすことができました。

さくら・はなみずき病棟の入院患者さんやご家族、外来患者さん、職員とその家族、計55人が参加。「愛燦燦」や「ふるさと」の演奏に涙ぐむ人もいて、心に

〈静岡〉特養小鹿などしこ苑 廊下にちぎり絵と水彩画 画廊のような空間に

昨年12月11日から、水彩画教室「土筆の会」の水彩画作品を当苑の廊下に展示しています。以前からご協力いただいている「ちぎり絵の会」の7作品の展示に「土筆の会」の9作品が加わり、華やかさが増しました。

「土筆の会」は、

当苑が月に1回お手伝いをして

いる子ども食堂

の開催場所「来・

て・こ（静岡市

生涯学習センタ

ー）」の職員か

らご紹介いた

きました。

響く音色に皆が聴き入っていました。最後は「ふるさと」を全員で合唱し、温かな余韻の中で幕を閉じました。

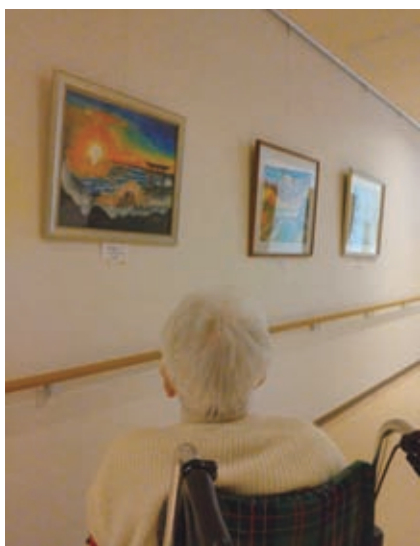
後日「コンサートを鑑賞した入院患者さんの様子がとても穏やかだった」と聞き、改めて音楽の癒やしの力を実感しました。

（看護師長 権代好美）

絵を楽しんでいる姿はもちろんですが、面会のご家族が足を止めて、一つひとつの作品に目を向けている姿も見られます。

展示作品は半年ごとに入れ替える予定で、他にも「来・て・こ」で活動している皆さんの作品を展示し、地域の方々が気軽に見に来られる小さな画廊のような空間になればと思います。

（済生記者 石田遼祐）



topics



司書が県立図書館で講演

済生会図書館連絡会

済生会図書館連絡会は、済生会施設内図書館の充実と向上に努め、学術支援を通じて済生会事業の発展に貢献することを目的としています。

滋賀県立図書館から連絡会に専門研修会講師派遣の依頼があり、12月12日に筆者が講演を行いました。ハイブリッド形式で県内の公共・学校・専門学校の司書ら50人以上が参加。図書館における「選書」をテーマに、



医療制度の状況、さまざまな情報源の階層、信頼できる医療・健康情報の見極め方について解説しました。

インターネット上に不確かな情報があふれている現在、地域の図書館同士が交流し、連携して市民への情報提供にあたる重要性を再認識しました。

本会の活動の

詳細については
ホームページを
ご参照ください。



(千葉・習志野病院

図書室司書 佐藤正恵)

〈福岡〉大牟田病院

指示漏れ防止ポーチ導入 部署別発表会で最優秀賞

昨年11月25日からの1週間、医療安全対策の部署別発表会が



の内服や指示漏れを防ぐためにポーチを利用した伝達方法の導入です。昨年3月の病棟再編で新たな診療科が加わり、手術前指示が多様化。漏れなく対応するためにはさまざまな状況を想定し、ポーチの大きさ、札の種類、

ポスター掲示形式で行なわれました。エントリーした14部署がそれぞれの取り組みをポスターにまとめ、活動・実績を報告。令和6年度は筆者が所属する4階病棟が最優秀賞を受賞し、1月14日に表彰式が行なわれました。

受賞した取り組みは、手術前

色分けなど、業務効率を落とさずかつ経験年数にかかわらず標準化できる方法を考案しました。多くの意見交換、仮運用での見直しを重ねた結果、スムーズに業務内に取り入れることができました。

(4階病棟看護師 重松祥弘)

〈神奈川〉横浜市六浦地域

ケアプラザ

より良いまちづくりへ 地域活動拠点同士の交流

11月26日、武蔵野市コミュニティ研究連絡会の皆さんが「ソ



ーシャルインクルージョンを考えるWebメディア(シンク!」で多世代交流カフェ」む



うたんカフェ」の記事を見ていただいたことが縁で、当施設へ



視察のために来訪しました。

当日は55人（ボランティア52人、武蔵野市職員3人）が参加。施設を見学していただくとともに、ケアプラザの概要、地域活動交流事業、生活支援体制整備事業の取り組みについて説明しました。

武蔵野市コミュニティセンター（通称コミセン）と当施設は形態が違いますが、地域活動拠点としての役割は共通しています。担い手不足など同じような課題もあります。

より良いまちづくりができるよう、これからも地域と地域をつなぐ役割を果たします。

（済生記者 山田和恵）

〈神奈川〉横浜市六浦地域 ケアプラザ

ベトナムからの研修医が 地域での取り組みを見学

昨年12月、ベトナムのダナンがん病院のチャン・ホン・フック医師とチュオン・ゴック・タン医師が研修の一環として、当

施設で介護予防や地域での取り組みを見学しました。

12月2日には施設見学とともに事業説明を受け、デイサービス利用者さん・地元小学生と交流し、書道体験を行いました。

12月10日には認定NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクトが運営する「横浜こどもホスピス」うみとそらのおうち」を見学。田川尚登代表理事と飯

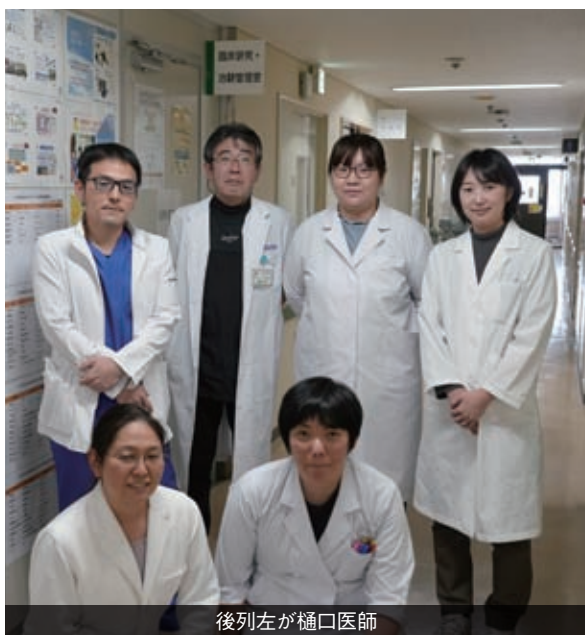
山さちえ事務局長が、同施設が生命に関わる病気を患った子どもとご家族が「家族としての豊かな時間」を過ごせる場所、地域と共に歩む場所であると説明しました。

2人の医師は「いつかこのような取り組みや施設がベトナムにもできることを願っている」と話していました。

（済生記者 山田和恵）

〈茨城〉水戸済生会総合病院 心不全の国際共同試験で 世界ランク入り

昨年9月、循環器内科部長の



後列左が樋口医師

樋口基明医師がA社のミネラルコルチコイド受容体拮抗薬／SGLT2阻害薬配合剤とB社のアルドステロン合成酵素阻害薬／SGLT2阻害薬配合

剤の心不全の国際共同試験において、それぞれ「リンク世界5位（国内1位）」「無作為化済み被験者数ランキング」において



眠っていたピアノが……

〈埼玉〉鴻巣病院の病棟には平成7年に寄贈されたピアノがあり、ここ7～8年間使用されず未調律となっていました。その状態に気付いた門野淳子副院長の提案で、昨年11月と12月に調律を行いました。1回の調律作業に3時間近くかかるのですが、きれいに整えられていくピアノはまるで生まれ変わるようでした。12月3日に無事調律が完了。1月

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください。

世界3位（国内1位）になったことが治験責任医師向けのニュースレターで報告されました。

A社の治験責任医師会議では、被験者の患者さんに真摯に寄り添い、承認間近の最新治療の有用性と安全性の正確なデー

タを集積する際の心構えについて講演しました。樋口医師は「これから本治験のリクルートを含めてまい進

していきます」と意欲を語りました。（治験管理室 栗原茂仁）



21日には門野副院長の演奏で4曲が披露されました。ピアノが分解された状態から興味深そうに見ていた患者さんたちは演奏会が開催されると大変喜び、スタッフからも感動の声が上がりました。

病棟内は長期入院の方も多く、ピアノの調律と演奏は患者さんに楽しみを提供することにつながりました。今後は定期的に演奏会を開催し

ていきたいと考えています。

（埼玉・鴻巣病院

済生記者 田島利恵子）

★すてきな取り組みですね！音楽の力が、患者さんやスタッフの心を優しく包みますように。

（本部広報課 杉山菜央）

学びと交流の済生会学会

2月15・16日に愛媛県で行なわれた済生会学会に参加し、「LGBTQが働きやすい環境づくり」全国初！埼玉県の取り組みへの参加」について発表しました。聴講者からは「参考にした」との声をいただき、今後の展開についての質問も寄せられ、多くの「気づき」を得る機会となりました。

学会後の懇親会や2次会では、他部署の職員と郷土料理を味わいながら楽しく交流できました。空き時間には、臨床検査科の関谷晃一副部長、

人事・総務課の鈴木翔真さんと松山城を訪れ、壮大な石垣や天守の美しさに感動。さらに「姫っ子地鶏」の料理を堪能し、歴史ある道後温泉で心身を癒やしました。



職員が働きやすい環境づくりへの決意を新たにするとともに、学会担当病院の松山病院皆さんの温かなおもてなしに心から感謝しています。

（埼玉・川口総合病院

人事・総務課 本橋和宏）

★まさに「済生に叡智集いし伊予の春」ですね。この句は28ページ写真を参照してください。

（本部広報課 河内淳史）

ウッチャンからの贈り物

本誌昨年11月号に掲載された〈広島〉老健はまな荘の「昭和レトロコーナー」の記事を読んでもくれた済生会本部総務部厚生課のウッチャンこと杉浦智子さんから、買い物かごの寄贈がありました。

このかごは昭和の着物の端切れや和紙などを使って杉浦さん本人が制作した一閑張りのもの。昭和をイメージしたイラスト、広島の厳島神社や鯉（カープ）の図柄も入っています。

また、多趣味な杉浦さんは三つのバンドを掛け持ちしています。本部で見る彼女は大人しい(?)女性というイメージですが、アフロ三味線バンドのボーカルを務めプロ級の歌唱力を披露しています。歌声を聴いてみたい方は、YouTubeで



「Wouassi & Roots Band」と検索してみてください。本部の皆さん、杉浦さんのこんな一面知っていましたか？

(広島・老健はまな荘

済生記者 佐藤 聡)

★どーも。声が大きく派手好きなウッチャンです。趣味を広く浅く楽しんでいます。

(本部厚生課 杉浦智子)

力不足を実感し……

認定看護師を目指す

〈東京〉向島病院の患者さんは高齢の方が多く、入退院を繰り返してADLが低下、食事摂取の困難さからリハビリも進まない……という現状があり、日々悩み、力不足を感じていました。もっと私にできること

はないかと考え、摂食嚥下障害看護認定看護師を目指しました。

研修中は新しい知識や体験で、驚きと学びの連続。研修生同士で口腔ケアをしたり、胃管挿入をしたり、経鼻内視鏡を挿入したまま食事をしたりもしました(思ったより食べやすかったです)。羞恥心や苦痛も味わいながら、初心に帰ったような良い体験ができました。



そして、昨年11月27日、認定審査に無事合格できました！ 今後は当院の多職種協働チームの一員となり、患者さんの個性に合わせた評価・検討を繰り返し、口から食べるにはどのような支援が必要か考え、支えになりたいと思います。

(東京・向島病院 摂食嚥下障害看護認定看護師 鈴木めぐみ)

★認定看護師の大変さがよくわかりました。すでに患者さんの気持ちに

寄り添える看護師さんですね。

(本部広報課 河内淳史)

次こそは！ 大入り袋獲得だ

1月29日、入所定員80人の〈広島〉老健はまな荘が満床になり、小林博文施設長からの粋な計らいで、大入り袋ならぬ小入り袋が職員全員に配られました。大入り袋は次回に取っておき、今回は節分が近いということもあって豆まき用の小入り袋を選んだそうです。

過去5年間の入所利用者数の最高



値は79人で、80人になったことは一度もありませんでした。これも昨年7月の〈佐賀〉老健まつら荘の視察が職員の刺激になり、学んできたことを参考に創意工夫した結果だと思

います。入所稼働率は安定してきたので、次はデイケアの稼働率向上を目指して他のデイケアの視察も必要と考えています。

次は職員皆で大入り袋を狙いにいくぞー！ 小林施設長、大入り袋に入れる資金の準備をよろしくお願いします（笑）。

（広島・老健はまな荘

済生記者 佐藤 聡）

★小さくてもご褒美はうれしいものですよね。次なる目標を引き出し、士気を高める施設長、すばらしい！

（大空出版 後藤藍子）

永年勤続者表彰式を終えて

〈福岡〉大牟田医療福祉センター職員の永年勤続者表彰式が3月6日に執り行なわれました。支部表彰として功労賞、15年勤続表彰があり、本部表彰として30年、20年、10年勤続者の合計27人が永年の功績を表彰されました。私は功労賞を賜り、受賞者を代表して謝辞を述べさせていただきました。

済生会に憧れて入職したのが36年前。改めて今日までの長い年月を振り返ることができました。病院看護師としての業務をはじめ、訪問看護や介護保険関連の業務に携わり、事業の立ち上げや閉鎖など、経営管理の難しさも経験しました。また、さ



まざまな研修への参加にあたっては、病院や家族の理解にも改めて感謝の気持ちを抱きました。

気持ちを新たに、今後も大牟田病院の一員として精いっぱい努力します。

（福岡・大牟田病院 患者サポート

センター課長 徳永はるみ）

★受賞おめでとうございます！ 積み重ねた歩みが、これからも輝き続けますよう応援しています。

（本部広報課 杉山菜央）

15年続く庭手入れのボランティア

〈兵庫〉小規模特養なでしこ神戸は2009年6月に開設。田淵一郎さんは同年12月から現在に至るまでボランティアで庭の手入れをしてくれています。

雨の日も、夏の炎天下でも週4日、自転車通いながら草を引き、土を耕し、球根を植え、季節の花々や木々を整備。果物や野菜作りもお手のものです。

ささやかなお返しとして、お昼の休憩時には当施設で手作りしている昼食を召し上がっていただいています。そんな田淵さんは「15年続けてきて私も年をとりましたが、体が動くうちは続けていきたい」と言います。

ボランティアさんと共に15年。これからも地域の方々と共に成長して



いけるよう職員一同頑張ります。

（兵庫・小規模特養なでしこ神戸

看護小規模多機能居宅介護なでしこ神戸 計画作成責任者 藤内貞子）

★15年も続けられるのは本当にすごいことです。田淵さんだけが知る楽しみがありそうですね。

（メディカル・リーフ 岩谷純一）

今年こそ鬼退治！

節分の日から少し遅れて2月13日、託児所「なでしこ」で8人の子どもたちが豆まきを行いました。

昨年は鬼に向けて豆に見立てたボールを投げるはずが、怖がってボールを手にとることもできず、泣



いってしまう子どもたちがたくさんいました。しかし、今年は鬼の紙芝居を読んだり、先生が簡易的な鬼のお面をかぶってボールを投げる練習をしたりと少しずつ鬼への恐怖心を克服。

そうして迎えた本番。練習の成果を発揮し、誰一人泣くことなく勇敢に鬼へと立ち向かい、ボールを投げる事ができました！ 最後には鬼と仲直りをしてハイタッチをする姿も。元氣いっぱい、笑顔の節分となりました。

（大分・日田病院主事 南谷 華）

★みんなで鬼退治頑張ったね！先生たちの工夫で、鬼とハイタッチするほど仲良くなれるとは…。

（本部広報課 大嶋 薫）

大きな口の鬼をやっつけろ！

2月2日の節分の日にちなんだレクリエーションを認知専門棟45人の利用者さんで行ないました。

今回は小さなボールを豆に見立て、職員手作りの鬼を目掛けて投げてもらいました。この鬼は口が大きく、その口いっぽいにボールがたまると鬼が退治できるようになっています。口にボールが入るとニッコリ



笑顔になる人、手をたいて喜ぶ人。鬼の口がいっぱいになるまで真剣な表情で投げる人、夢中になり立ち上がってボールを投げる人も。また、利用者同士が応援し合う場面も見られ、にぎやかな鬼退治となりました。

参加した利用者さんは「楽しかった」「おもしろかった」「これで良い一年が過ごせるわ」と満足そう。邪

次号予告

済生 No.1151
[令和7年5月号]

済生会の不易流行論 (200) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 温水洋一

口福にっぽん (92)

てづくりおもちゃ いまいみさ

気をはらい、利用者さんと職員皆の無病息災を祈ることができました。

（滋賀・老健ケアポート栗東）

介護福祉士 向井 翼

★皆で鬼をやっつけたので、病気や災害も追い払われたはず！ きっと健やかで素敵^{すてき}な年になりますね

（大空出版 高橋美憂）

伐採木を資源にしてSDGs！

〈福岡〉飯塚嘉穂病院の敷地は多くの樹木に囲まれて自然が豊かなのですが、環境整備のための毎年の手入れが大変です。特に木々の剪定^{せんてい}、伐採で発生した丸太や太い枝の処分に手間がかかることが悩みでした。

2月下旬に職員が伐採作業を行なったところ、それを見ていた患者さんのご家族が「ストーブの燃料にしたいので不要な材木を引き取



りたい」と声をかけてくださいました。また、別の入院患者さんからも同様の申し出があり、材木にはさまざまな活用例があることが分かりました。

これからは廃棄する材木は処分するのではなく、資源として活用することに取り組みたいと思います。
(福岡・飯塚嘉穂病院)

参事 久良知範(幸)

★伐採木で椅子を作ったり、キャンプの焚き火にしたりとワクワクするような活用方法がありそうです！
(メディカル・リーフ 岩谷純一)

ファンラン完走で達成感！

3月9日に静岡市で開催された「静岡マラソン」に〈静岡〉特養小鹿なでしこ苑の職員も参加。フルマラソンとファンラン合わせて約1万4000人が駿府路を駆け抜けました。

私は数年前にフルマラソンにチャレンジしたものの、途中でバスに乗



せられた苦い記憶が……。今年はファンラン(11・6キロ)を頑張って走りました。フルマラソンのスタートから20分後、静岡県庁前にてファンランがスタート！

初めから自分のペースで走れていたと思いましたが、最終給水所を少し走ったところで他ランナーと接触し転倒……。それでも何とか最後まで走り切ることができ、何とも言えない達成感を感じました！もう数年はファンランで走り、いずれはフルマラソンを完走したいです。

(静岡・特養小鹿なでしこ苑)

済生記者 石田遼祐

★子どものころ、マラソン大会でいつのかにかびり走者になっていて焦った思い出が。リベンジしたい！

(メディカル・リーフ 坂本陽子)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施薬救療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。

以来今日まで113年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施薬救療」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下

会長 潮谷義子

理事長 炭谷 茂

本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県

病院 83

診療所 20

介護医療院 2

介護老人保健施設 28

救護施設 1

児童福祉施設 25

老人福祉施設 119

障害者福祉施設 9

看護師養成施設 7

訪問看護ステーション 66

地域包括支援センター 31

地域生活定着支援センター 5

その他 9

合計 405 (数字は令和5年度)

さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の58島の診療活動に携わっている。

職員数は全国で約6万6000人。

済 生

[令和7年4月号]

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和7年4月10日発行

通巻第1150号(第101巻第4号)

編集兼
発行人 炭谷 茂

発行所 社会福祉法人財団法人済生会

〒108-0073

東京都港区三田1-4-28

三田国際ビルディング21階

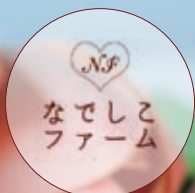
TEL: 03-3454-3311 (代)

FAX: 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋

東京都中央区八丁堀4-4-1

© 社会福祉法人財団法人済生会



熊本、松山から「愛」をお届けします！



熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428

松山ワークステーション「なでしこ」
愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959



焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。
熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出店し、済生会のホームページ上で営業中です。
商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。
どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー (左上から時計回りにプレーン、マーブル、レーズン、紅茶)



♥ギフトボックス (クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ)



♣くまドレーズ (くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレーズ)



♠元祖クッキー (片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

済生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saiseikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力いっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。



その一瞬の あなたの感動が、

2026年・2027年版
済生会なでしこカレンダーの写真募集



★2年に1度のチャンス!! 上期下期各1枚、2年分の計4枚
を選定し、毎年配付するカレンダーのデザインに使用します。
★入選者には済生会の障害者就労支援事業所が製作・販売している「なでしこファーム」
のお菓子セットを進呈します。

みんなの感動に。

可憐ななでしこの無垢なすがたから、
ハッとさせられる斬新な視点まで。
あなたの捉えた最高の一瞬を、ぜひお寄せください。

締め切り 令和7年7月31日(木) 必着

お問合せ・
提出先 済生会本部
広報課

koho@saiseikai.or.jp



募集要項 【写真の仕様】●題材はなでしこの花。自生・栽培種のいずれも可。●デジタルデータでサイズは1MB以上、正確なピン
トと露出補正で撮影してください。●構図は横向き。●写真に撮影日が入っているものは不可。【応募資格】●済生会職員(アルバイト含
む)、職員家族、済生会で活動するボランティア。【応募方法】●メールにて「写真データ」と「応募用紙」をご提出ください。【応募方法】
●応募点数は1人1点まで。●写真のデータ量が大きすぎるとメール添付で送信できない場合があります。なでしこクラウドや外部スト
レージをご使用ください。●応募作品は採用結果に関わらず、法人ホームページやパンフレット等に使う可能性があります。

済生会となでしこ

初代総裁・伏見宮員愛親王が創立当時、「撫子の歌」を済生会の事業に寄せられたのにちなみ、いつの世にもその趣旨を忘
れないようにと、撫子の花に露をあしらったものが済生会の紋章になっている。